A decorative border with floral motifs in the corners, surrounding the text.

令和5年度

事業報告書

令和5年4月1日～令和6年3月31日

社会福祉法人 慈童会

# 令和5年度 事業報告書

## 目次

法人本部	1
管理部	
事務所	
地域貢献活動	
研修会	
安全衛生管理	
委員会活動	
第1種社会福祉事業	20
特別養護老人ホーム	
第2種社会福祉事業	27
短期老人入所事業	27
くすのき園 短期入所生活介護事業所	
くすのき園 介護予防短期入所生活介護事業所	
老人デイサービス事業	29
くすのき園 通所介護事業所	
くすのき園 介護予防日常生活支援総合事業通所介護事業所	
居宅介護事業	31
くすのき園 訪問介護事業所	
くすのき園 介護予防日常生活支援総合事業訪問介護事業所	
居宅介護事業所 くすのき園	
グループホーム	35
共用型通所介護事業所	
保育所	38
くすのき保育園	
公益事業	40
くすのき園 居宅介護支援事業所	
鈴鹿第4地域支援センター・鈴鹿第4介護予防支援事業所	
鈴鹿北部認知症総合支援事業所	

# 社会福祉法人 慈童会

## 1. 法人全般

法人理念「慈しむ心を育む」の下、当法人は地域のオンリーワン法人を目指して第1期中期計画（令和3年～令和5年）を策定して実行してきました。令和5年度は戦略目標を定め、アクションプランに基づき行った施策内容を最終評価する年度であります。地域包括ケアシステムに向けた地域のネットワークの構築には、各関係機関と協働を図り一定の評価は得られたと考えております。その中で、終息の目途が立たないコロナ感染症対策、どの地域でも起こり得る未曾有の大災害、物価高騰、職員不足、施設の老朽化問題など法人を取り巻く環境変化も著しい中、一つ一つ課題解決に向けて継続的に取り組んできました。また透明性（情報公開）、倫理性（苦情解決）、組織性（内部監査・監事監査）の積極的な取り組みで、地域社会との信頼関係が築けてきたことから職員の意識改革にも繋がっております。

2. これからの法人運営は、情報社会でありスマートフォンやさらなる ICT・AI の活用が一層進み、LIFE が事業運営の柱になっていくと考えております。その為には、職員の負担軽減や生産性向上には、介護ロボットのさらなる導入、保育事業も含めた働き方改革などを進めてまいります。令和3年度から、職員幸福度 UP プロジェクトチームを結成してより働きやすい職場環境改善と職員意識向上に努めております。引き続き、コンプライアンスを遵守して私たちの誓いの下、利用者本位の質の良いサービス提供を継続していきます。
3. これから迎える 2025 年問題、2040 年問題など社会福祉法人を取り巻く環境も大きく変わっていきます。社会全体で取り組んでいかなければならない諸課題も多くあります。社会の一員として関係機関と連携しながら、地域共生社会の実現に向けて役割を果たせるように努めていく所存でございます。

## 3. 役員会

### (1) 理事会

- ・ 令和4年度 事業報告及び決算の決議 令和5年 5月30日
- ・ 新理事長並びに新役員を選任決議 令和5年 6月19日
- ・ 令和5年度 中間状況報告及び補正予算の決議 令和5年11月16日
- ・ 補正予算・新施設長の選任及び令和6年度 事業計画及び予算の決議 令和6年 3月21日

### (2) 評議員会

- ・ 令和4年度 事業報告及び決算の決議並びに理事・監事の選任 令和5年 6月19日
- ・ 令和5年度 中間状況報告及び補正予算の決議 令和5年11月28日
- ・ 補正予算・新施設長の任命及び令和6年度事業計画及び予算の決議 令和6年3月25日

## 4. 監査

- (1) 定例監査 財産及び事業の執行状況及び決算監査 令和5年 5月26日
- (2) 内部経理監査 全事業所収支状況 試算表報告 令和5年 9月25日

## 5. 表彰

### (1) 永年勤続表彰

5年勤続	7人(老人6人・保育1人)	10年勤続	7人(老人7人 保育0人)
15年勤続	4人(老人3人・保育1人)	20年勤続	1人(老人0人 保育1人)
25年勤続	2人(老人1人・保育1人)	30年勤続	2人(老人0人 保育2人)

## 6. 採用及び退職者数 (令和5年4月1日～令和6年3月1日)

(1) 採用数 21人(老人16人・保育5人)

(2) 離職数 16人(老人11人・保育5人)

## 令和5年度 社会福祉法人 慈童会 理事会

### 第 1 回 理事会

令和 4 年度事業報告及び収支決算書の承認

日 時 令和 5 年 5 月 3 0 日 (火曜日) 午前 9 時 30 分～  
場 所 特別養護老人ホーム くすのき園 会議室  
出席者 理事 6 名 欠員 0 名 戸田・中村監事 2 名  
議 長 北野理事  
署名人 北野理事長 戸田・中村 監事  
議事録作成者 加藤事務長 事務局 小野寺事務局長・加藤事務長・古川在宅統括責任者

#### 議 案

##### (1) 決議事項

第 1 号議案 令和 4 年度 事業報告の承認について(案)  
第 2 号議案 令和 4 年度 資金収支決算書の承認について(案)  
第 3 号議案 社会福祉法人慈童会 評議員選任・解任委員会委員の解任及び選任について (案)  
第 4 号議案 社会福祉法人慈童会 理事及び監事選任候補者の推薦について (案)  
第 5 号議案 鈴鹿第 4 介護予防支援事業所 運営規程の一部変更について (案)  
第 6 号議案 令和 5 年度 定時評議員会の開催について (案)

##### (2) 報告事項 なし

##### (3) その他

### 第 2 回 理事会

新役員の選任

日 時 令和 5 年 6 月 1 9 日 (月曜日) 午後 1 時 0 0 分～  
場 所 特別養護老人ホーム くすのき園 会議室  
出席者 6 名 欠員 0 名 戸田・中村監事 2 名  
議 長 北野理事長  
署名人 北野理事長 戸田・中村 監事  
議事録作成者 加藤事務長 事務局 小野寺事務局長・加藤事務長・古川在宅統括

#### 議 案

##### (1) 決議事項

第 1 号議案 社会福祉法人慈童会 新理事長の選任について (案)  
第 2 号議案 社会福祉法人慈童会 新役員の選任について (案)

##### (2) 報告事項 なし

#### その他

### 第 3 回 理事会

令和 5 年度中間報告

日 時 令和 5 年 1 1 月 1 6 日 (木曜日) 午前 9 時 25 分～  
場 所 特別養護老人ホーム くすのき園 会議室  
出席者 理事 6 名 欠員 0 名 戸田・中村監事 2 名  
議 長 鈴木理事  
署名人 北野理事長 戸田・中村 監事

議事録作成者 加藤事務長 事務局 小野寺事務局長・加藤事務長・古川在宅統括

## 議案

### (1) 決議事項

- 第 1号議案 令和5年度 半期収支決算報告について(案)
- 第 2号議案 令和5年度 資金収支第1次補正予算について(案)
- 第 3号議案 くすのき園訪問介護事業所運営規程の一部変更について(案)
- 第 4号議案 くすのき園居宅介護支援事業所運営規程の一部変更について(案)
- 第 5号議案 令和5年度 第2回評議員会の開催について(案)

(2) 報告事項 令和5年度中間事業報告について

(3) その他

## 第4回 理事会

令和6年度事業計画及び予算の承認

日時 令和6年3月21日(木曜日) 午前9時30分～  
場所 特別養護老人ホーム くすのき園 会議室  
出席者 理事6名 欠員0名 戸田・中村監事 2名  
議長 北野理事長  
署名人 北野理事長 中村監事  
議事録作成者 加藤事務長 事務局 小野寺事務局長・加藤事務長・古川在宅統括

### (1) 決議事項

- 第 1号議案 令和5年度 資金収支第2次補正予算について(案)
- 第 2号議案 特別養護老人ホームくすのき園 施設長の任命について(案)
- 第 3号議案 令和6年度 事業計画の制定について(案)
- 第 4号議案 積立金の取崩しについて(案)
- 第 5号議案 令和6年度 資金収支予算の制定について(案)
- 第 6号議案 社会福祉法人慈童会 就業規則の一部変更について(案)
- 第 7号議案 社会福祉法人慈童会 臨時職員就業規則の一部変更について(案)
- 第 8号議案 特別養護老人ホームくすのき園 運営規程の一部変更について(案)
- 第 9号議案 くすのき園短期入所生活介護事業所・介護予防短期入所介護事業所 運営規程の一部変更について(案)
- 第10号議案 くすのき園通所介護事業所 運営規程の一部変更について(案)
- 第11号議案 くすのき園介護予防通所介護事業所 運営規程の一部変更について(案)
- 第12号議案 くすのき園訪問介護事業所 運営規程の一部変更について(案)
- 第13号議案 くすのき園介護予防・日常生活支援総合事業訪問介護事業所 運営規程の一部変更について(案)
- 第14号議案 居宅介護事業所くすのき園 運営規程の一部変更について(案)
- 第15号議案 グループホームくすのき園 運営規程の一部変更について(案)
- 第16号議案 共用型デイサービスグループホームくすのき園 運営規程の一部変更について(案)
- 第17号議案 くすのき園居宅介護支援事業所 運営規程の一部変更について(案)
- 第18号議案 社会福祉法人慈童会 鈴鹿第4介護予防支援事業所 運営規程の一部変更について(案)
- 第19号議案 令和6年度 給食業務委託契約の締結について(案)
- 第20号議案 鈴鹿市介護予防普及啓発事業に関する業務(出前教室・WEB教室)に関するプロポーザル参加表明について(案)
- 第21号議案 令和5年度 第3回 評議員会の開催について(案)

(2) 報告事項

- 第 1号報告 特別養護老人ホームくすのき園 本館3階洗濯室並びに本館1階及び2階の改修について  
第 2号報告 認知症総合支援体制の再編に係る委託内容の変更について  
第 3号報告 令和5年度 グループホームくすのき園 第三者評価受審結果について

(3) その他

令和5年度 社会福祉法人 慈童会 評議員会

第 1 回 定時評議員会

令和4年度事業報告及び収支決算書の承認

- 日時 令和5年6月19日 (月曜日) 午前 9時30分～  
場所 特別養護老人ホーム くすのき園 会議室  
出席者 評議員 6名 欠員 1名 (今村 評議員) 監事 2名 戸田・中村 監事  
理事 3名  
議長 豊田評議員  
署名人 高木評議員 ・ 中川評議員  
議事録作成者 加藤事務長 事務局 小野寺事務局長 ・ 古川在宅統括  
議案

(1) 決議事項

- 第 1号議案 令和4年度 事業報告の承認について(案)  
第 2号議案 令和4年度 資金収支決算書の承認について(案)  
第 3号議案 社会福祉法人慈童会 理事及び監事の選任について(案)

(2) 報告事項

- 第 1号報告 社会福祉法人慈童会 評議員選任・解任委員の解任及び選任について (案)

(3) その他

第 2 回 評議員会

令和5年度中間報告

- 日時 令和5年11月28日 (火曜日) 午前 9時30分～  
場所 特別養護老人ホーム くすのき園 会議室  
出席者 評議員 5名 欠員 2名 (今村・伊藤評議員) 監事 1名 戸田 監事  
理事 3名  
議長 豊田評議員  
署名人 高木評議員 ・ 田中評議員  
議事録作成者 加藤事務長 事務局 小野寺事務局長 ・ 古川在宅統括  
議案

(1) 決議事項

- 第 1号議案 令和5年度 半期収支決算報告について(案)  
第 2号議案 令和5年度 資金収支第1次補正予算について(案)

(2) 報告事項

- 第 1号報告 令和5年度 中間事業報告について  
第 2号報告 くすのき園訪問介護事業所運営規程の一部変更について  
第 3号報告 くすのき園居宅介護支援事業所運営規程の一部変更について

(3) その他

第 3 回 評議員会

令和6年度事業計画及び予算の承認

日 時 令和 6 年 3 月 25 日 (月曜日) 午前 9 時 30 分～  
場 所 特別養護老人ホーム くすのき園 会議室  
出席者 評議員 7 名 欠員 0 名 監事 1 名 戸田監事  
理事 3 名  
議 長 豊田評議員  
署名人 鈴木評議員 ・ 伊藤評議員  
議事録作成者 加藤事務長 事務局 小野寺事務局長 ・ 古川在宅統括

(1) 決議事項

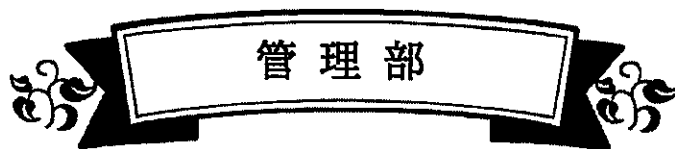
- 第 1 号議案 令和 5 年度 資金収支第 2 次補正予算について (案)
- 第 2 号議案 特別養護老人ホームくすのき園 施設長の任命について (案)
- 第 3 号議案 令和 6 年度 事業計画の制定について (案)
- 第 4 号議案 積立金の取崩しについて (案)
- 第 5 号議案 令和 6 年度 資金収支予算の制定について (案)
- 第 6 号議案 社会福祉法人慈童会 就業規則の一部変更について (案)
- 第 7 号議案 社会福祉法人慈童会 臨時職員就業規則の一部変更について (案)

(2) 報告事項

- 第 1 号報告 特別養護老人ホームくすのき園 運営規程の一部変更について
- 第 2 号報告 くすのき園短期入所生活介護事業所・介護予防短期入所介護事業所 運営規程の一部変更について
- 第 3 号報告 くすのき園通所介護事業所 運営規程の一部変更について
- 第 4 号報告 くすのき園介護予防通所介護事業所 運営規程の一部変更について
- 第 5 号報告 くすのき園訪問介護事業所 運営規程の一部変更について
- 第 6 号報告 くすのき園介護予防・日常生活支援総合事業訪問介護事業所 運営規程の一部変更について
- 第 7 号報告 居宅介護事業所くすのき園 運営規程の一部変更について
- 第 8 号報告 グループホームくすのき園 運営規程の一部変更について
- 第 9 号報告 共用型デイサービスグループホームくすのき園 運営規程の一部変更について
- 第 10 号報告 くすのき園居宅介護支援事業所 運営規程の一部変更について
- 第 11 号報告 社会福祉法人慈童会 鈴鹿第 4 介護予防支援事業所 運営規程の一部変更について
- 第 12 号報告 令和 6 年度 給食業務委託契約の締結について
- 第 13 号報告 鈴鹿市介護予防普及啓発事業に関する業務(出前教室・WEB教室)に関するプロポーザル参加表明について
- 第 14 号報告 特別養護老人ホームくすのき園 本館 3 階洗濯室並びに本館 1 階及び 2 階の改修について
- 第 15 号報告 認知症総合支援体制の再編に係る委託内容の変更について
- 第 16 号報告 令和 5 年度 グループホームくすのき園 第三者評価受審結果について

(3) その他





## 年度目標 法人に関わる全ての方の幸福度追求

### 1. 上質なサービスの提供

#### (1) 法人理念と私たちの誓い浸透

役職者を中心に法人理念、私たちの誓い、中期経営計画、ビジョンの共有を図った。法人理念・私たちの誓いは、幹部会議の開始時に唱和をすることで意識統一になった。

#### (2) 利用者本位の良質なサービス提供

利用者様に寄り添う個別ケアの実施を推進するため、管理職間での情報共有を図り、事業運営を行った。また今年度より株式会社日本経営のコンサルタントを卒業し、これまで蓄積した助言等をいかしながら運営することができた。

#### (3) リスクマネジメント

##### \* 苦情受付

苦情受付担当者、苦情解決責任者、第三者委員を選任し、担当ポスターを掲示すると共に苦情受付ボックスを玄関前に設置している。苦情受付ボックスへの投書はなかった。未解決なし。

年間苦情件数 3 件（前年度マイナス 7 件）

うち 保険者等への相談 0 件、うち、第三者委員への相談 0 件。

##### \* 事故報告

事故の発生後は報告書を提出して情報の共有を図っている。事故対策委員会を設置し、事故予防対策を話し合う機会を持つようにし、再発防止に努めている

年間事故発生件数 1 2 6 件（前年マイナス 3 5 件）

うち保険者等への報告 4 件（前年マイナス 5 件）

うち施設の損害補償保険請求件 1 件（前年マイナス 6 件）

### 2. 経営基盤の強化

#### (1) 経営企画会議（管理部会議）全 4 7 回。毎週月曜日 11 時から開催。

利用者、その家族、地域住民及び職員にとって有益な事業の存続と発展のために経営方針・判断（財務・経理、総務・人事、広報、情報管理）を検討する会議を開催した。

出席者：理事長 事務局長 施設長 在宅統括責任者 事務長 センター長

#### (2) 幹部会議 全 1 2 回。毎月第 2 金曜日 16 時から開催。

各事業所の運営状況の報告、情報及び問題点を共有することで、早期課題解決と改善策を立て円滑な事業運営を図る目的で会議を開催した。報告事項が主になってきており、業務の有効性や事業の運営等も含め、議論ができる会議としての役割を果たせるようにしていく。

出席者：施設長 在宅統括責任者 事務長 センター長 他各事業所代表者

#### (3) 実績検討会議 全 1 2 回。

接遇・サービスの質向上策、収益最大策、経費最小策、時間最短策の視点で目標、実行、振り返り、改善を行った。職員の理解を深めるための予算実績管理表を作成し、各事業所の収支状況の現状把握、前年度比較や執行状況を報告している。事業所間の収支バランス、活発な意見が出せる雰囲気作りが課題として残っている。

#### (4) ガバナンスの強化を目的とする内部統制管理

組織図により権限を明確にした。権限と責任を明示することにより法令遵守及び資産の保全を図り、労働環境の悪化を予防している。また、法人規則・法令遵守に徹した。

### (5)人材の確保、育成、定着

・人事考課制度に則った組織づくり、職階層に応じた教育を体系的に行っている。12月に職務チェックを時給者及び経験が浅い職員を主に実施、行動評価は正規職員が全員に実施した。評価結果後はリフレクションシートを活用したフィードバックを行った。リフレクションシートに3年先の個人目標を立て、目標に対してどのように行動するかを具体的に設定することで今後の行動変容につながっている

前期面談 1回 後期面談 1回

・将来の福祉・人材確保対策として、各種学校に通う介護福祉士を目指す学生に奨学金を支給した。7名の学生に年間480万円。令和6年度も継続する。

・福祉の就職フェア参加 6/4

・鈴鹿市介護職合同説明会 11/15

・シニア向け就職フェア 11/19

### (6)業務の効率化

法人の目的を達成するために、生産性向上に取り組み効率的・確実的に運営できるようよう人材、財務、修繕を主としてマネジメントした。法人全体の付加価値額は65709万円に至り、前年比1,526万円増となった。また人件費率は68.4%で労働分配率は87.7%と前年比マイナス6.25%の結果となった。職員が安定して勤められるために労働分配率を下げることなく、一定の人件費率を保ったまま、他の費用にもバランスよく資金を配分することが事業継続には必要であるため、無駄な費用を洗い出し、より一層の業務高効率化を進めていく。

## 3. 地域との関わり

### (1)地域への広報活動

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことで認知症カフェを再開した。介護出前WEB教室は昨年度に引き続き継続している。広報誌の近隣自治会への配布、ホームページから施設内の情報を発信した。

### (2)地域との共存

法人周辺の地域清掃活動は年1回行い、除草は随時行った。防災訓練（炊き出し含む）を地域住民、消防、防災危機管理課と行ったことで有事の際の行動など確認することができた。

### (3)地域の相談窓口

地域の相談窓口として施設サービス、在宅サービス、包括支援センターが連携を取り、虐待・ネグレクト・緊急時の対応を行った。

## 4. 職員満足度向上

### (1)人財育成・職員定着への整備

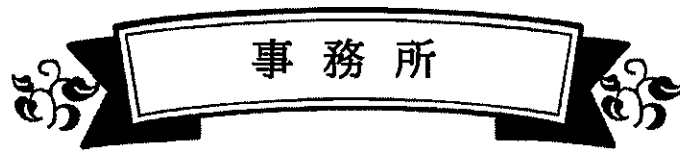
受容と承認できる職場風土への転換は、未だ道半ばであり、部下の承認、チャレンジができる環境整備、努力・過程の評価を管理部が率先して行っていく。

定期的に個人面談を行い、不安や悩みの解消に重きをおいて離職を予防した。新卒職員は、令和2年以降退職者0が続いている。また、個人面談を行うことで職員の意識改革にもつなげた。法人内外の研修を受講し、職員のケアの質向上に努めた。

### (2)ワークライフバランス

ワークライフバランス実現に向け、多様な働き方（時短勤務・リモートワーク）を進めてきた。長時間労働、休日労働は事前に上司に承認を得て行うことで抑制を図っている。年次有給休暇の計画的付与や時間単位での有給休暇付与を活用し、連続休暇の取得促進も啓発した。

育児短時間労働や介護休暇、子どもの看護休暇の取得者も年々増えており、意識は定着してきた。



## 年度目標 働きやすい職場への支援

地域の中で福祉サービスを必要とする方々のために、満足度の高いサービス提供を行うことで地域の方々に存在価値を認められ、社会貢献の実感を職員が得られる職場づくりを目指してきた。この点においては単年度の目標ではなく、一昨年から継続している。職員が利用者のために望む介護や「やりがい」を十分に感じられるよう、現状把握と小さな課題解決を重ねていく。また自己実現・自己成長が叶う職場への風土づくりに、職員自らが取り組む姿勢を持てるよう働きかけている。

### 1. 上質なサービスの提供

#### (1) 正確で迅速な事務処理

介護報酬請求事務は事務職が全事業所の請求事務を行っているため、漏れが発生しないよう、事務職間及び現場職員との報告連絡相談を密にし、情報共有を図った。過誤返戻は生じたものの、原因の究明と正しい再請求を行っている。

事務職が他職務の一端を担い協力することで存在価値を高め、職員の労働意欲向上及び過重労働の削減に繋がる役割を果たすよう協働した。

#### (2) 良質な接遇

利用者様、家族様、関係機関等の窓口となり、来客対応及び電話対応に非常に多くの人と関わる中で、利用者満足度アンケートにおいて概ね高評価を得ている。丁寧な言葉遣いと丁寧な説明を心掛け接遇への苦情ゼロを継続していくと共に、苦情や相談の申し出がしやすい受付として機能を果たしていく。また利用者様からの訴えは常に傾聴し、穏やかな生活の暮らしの継続に協力を惜しまなかった。

#### (3) プラスワン活動の推進

依頼された職務に対し、パソコンスキルや個々が持つ能力を活かして依頼以上の付加価値を付けるようにしている。

### 2. 経営基盤の強化

#### (1) 経費と無駄の削減

PHS やトランシーバーの携帯により、人を探す時間の短縮に努めている。また5S活動、5T活動を意識的に取り組み、業務効率の向上と安全性の確保、快適な職場環境の実現のために推進している。さらに対象を拡げ継続する。

利用料徴収では、引き落としを推進し、遅れている利用者には働きかけを行うことにより利用料徴収不能額は発生していない。

#### (2) 計算書類の理解

予算執行率や人件費、事業活動収支差額は、実績検討会議で報告することで経営状態の理解に努めている。予算要望を各事業所に求めることにより、予算管理と費用の抑制に繋げられ、概ね予算通りに執行できている。担当者と実務を通して社会福祉法人会計の仕組みの理解を促進した。これは継続していく。

#### (3) 保護者会

特養への入所時には保護者会の目的と活動内容を説明して頂き、入会を勧めている。感染症対策により来園の機会が少なかったこともあり、加入率は上がらなかった。

### 3. 地域との関わり

#### (1)ホームページの活用。

広報誌の掲載や行事情報、新型コロナウイルスによる重要なお知らせも掲載した。情報発信ツールとして広告宣伝のみならず、より多くの人に法人の存在を知って頂くために活用している。

#### (2)地域住民及び次世代育成

認知症カフェは飲食店営業許可認定を更新し、感染症対策を充分にとり、5月より再開した。総勢 95 名の参加があった。その他、ボランティアの受け入れや子ども参観日は中止している。

### 4. 職員満足度向上

#### (1)感謝を言葉にして伝える

利用者様や家族様、職員の努力を褒め、感謝することは相手への敬意を表し、良い人間関係の構築に役立つ。グッジョブカードを活用し、お互いに相手を認める職場環境への改善に励んでいる。

#### (2)自己成長と理想の自分

自己成長は目的ではなく手段であり、モチベーションを維持し継続して働くためのもので、小さいことでもブラッシュアップできたことを、人事考課を通じて評価した。

新しい情報やプロセスに関心を持ち、積極的に改善策に取り組む姿勢を持ち業務にあたっている。

#### (3)ワークライフバランス

仕事もプライベートも充実するよう、個々の事情に合った効果的な勤務形態及び有給休暇の取得を行っている。

# 地域貢献活動

## 活動内容

### (1) 介護予防開催

鈴鹿市より受託した介護予防普及啓発事業は、今年度出前講座とWEB講座(ZOOM)で開催した。

#### <出前講座>

日時	内容	場所	参加者
R5. 4. 8	運動講座	ひばりやま公民館	13名
R5. 6. 11	運動講座	ひばりやま公民館	13名
R5. 7. 2	運動講座	矢橋町公民館	27名
R5. 8. 12	運動講座	ひばり山公民館	12名
R5. 10. 14	運動講座	ひばり山公民館	13名
R5. 10. 30	運動講座	中箕田公民館	10名
R5. 11. 7	運動講座	肥田福寿会	15名
R5. 11. 8	運動講座	遊心会	23名
R5. 12. 9	運動講座	ひばり山公民館	12名
R5. 2. 10	運動講座	ひばりやま公民館	15名
年間10回	1種目	5自治会	延べ153名

#### <WEB講座>

期間	内容	回数	延参加者
令和5年7月から令和6年3月	運動講座	20回	56名

### (2) 介護機器等の貸出し

令和5年度、貸し出しはなかった。

### (3) 社会参加活動の受入

学校名	実習内容	人数
三重県中央自動車学校	交通違反者のボランティア活動(除草・窓ガラス清掃・車椅子清掃など)	44人

### (4) その他 地域貢献事業

事業名	実施主体
みえ福祉の「わ」創造事業 協力	三重県社会福祉協議会

### (5) 認知症カフェの開催

飲食店営業許可認定を更新し、認知症カフェを5月30日より再開した。飲食を伴う事業でもあり新型コロナウイルス感染拡大防止対策を継続し、令和6年3月までに毎月30日に計10回開催した。のべ参加者数は95名。新たに認知症総合支援事業所の職員も加入するなど、認知症に関心が高い参加者にとっては、より交流や情報交換の場として、また閉じこもりがちな参加者の活躍の場として賑わうカフェとして、今後も地域の方々の生活の質向上の場の提供として活動していく。

## 今後への展望・課題

新型コロナウイルス感染症が落ち着き、外出する方が増えてきた。昨年に比べて、出前教室の参加者が1事業所延べ人数で37人増となった。今後も健康寿命の延伸も含めて要望が増えることが予測される。地域の方々の期待に応えるために介護予防の実施、地域の相談窓口としての役割を果たす。

## 研 修 会

目 標：職員の資質の向上を目指し、サービス業としての意識改革を図る

大木歯科医院の協力のもと定期的に直接指導を受けた。また、職員による勉強会の機会も増えてきた。今後  
も職員の自己研鑽の為にも内容を深め、継続していきたい。

新型コロナウイルス対策の中、WEB研修を大いに活用した。

### 園 内 研 修

#### (1) 口腔ケア実地指導

口腔ケア指導 年間 24 回 指導者:大木歯科医院 歯科衛生士

出席職員:延べ 96 人 看護師・生活相談員・施設ケアマネージャー・栄養士・介護士

#### (2) 内部研修会

研 修 名	実施日	参加人数	講師又は報告者
新任・中途採用者の採用時研修	4/3	約 7	鈴木施設長 古川在宅統括 加藤事務長
排泄ケア研修	7/18 7/20	11	ユニチャームケアアドバイザー&コーディネーター 森下氏
福祉避難所開設訓練防災研修	3/13	10	鈴木施設長 古川在宅統括

3 回延べ 28 人

#### (3) 動画視聴による研修

研 修 名	参加人数	内 容
認知症への対応・認知症理解	適宜参加	疾病の特徴・行動心理・真の主訴
事故発生後の対応	適宜参加	事故予防・転倒予防・
緊急時対応	適宜参加	緊急時対応
看取りケアの基本・看取りとは	適宜参加	看取りケア
個人情報取り扱い	適宜参加	
介護技術・知識の向上	適宜参加	口腔ケア・拘縮・記録・排泄・レクリエーション
人材育成・接遇	適宜参加	後輩指導・接遇マナー・教育・チームワーク
職員安全衛生	適宜参加	腰痛予防・メンタルヘルス

### 外 部 研 修

- 全国社会福祉協議会・全国老施協・全経営協

研修名	実施日	参加人数	研修場所
事業継続セミナー	6月15日	1	WEB
東海北陸6県社会福祉法人経営者セミナー	12/14-15	3	福井県交際交流会館
介護報酬改定対応研修	9月1日～	1	WEB

3 回 5 名

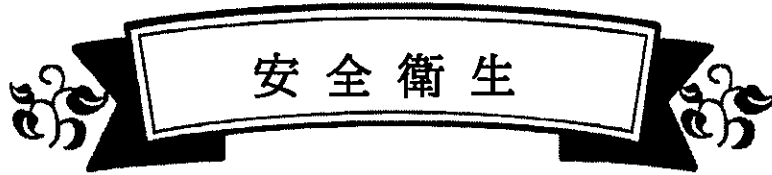
- 鈴鹿保健福祉部・鈴鹿地区連絡協議会・鈴鹿地区介護支援専門員協議会・鈴鹿保健所・鈴鹿市役所関係・鈴鹿市ディサービスセンター協議会等

研修名	実施日	参加人数	研修場所
ACP 研修	4/24 4/27	1	WEB
介護支援専門員協会 事例検討会	5月12日	1	WEB
福祉施設職員新人研修 社会人としての基礎・マナー	5月17日	1	三重県社会福祉会館
認知症医療とケア	5月17日	1	WEB
福祉栄養士研究会総会・研修	5月18日	1	三重県社会福祉会館
共生と予防を考える地域づくりミーティング	5月19日	1	WEB
法人決算書の読み方	5月25日	1	WEB
安全運転管理者講習	6月2日	1	四日市
認知症サポーター養成講座	6/17 8/22 9/13	1	WEB
職場内研修の作り方	6月21日	1	WEB
介護支援専門員更新研修専門課程Ⅱ	6/30 7/7 7/14 7/28 8/16	1	WEB
薬剤師会研修	7月5日	1	WEB
タイムマネジメント研修	7月10日	2	WEB
上手な褒め方・叱り方～部下の力を引き出すために～	7月11日	1	WEB
デイサービス協会研修	7月21日	1	WEB
令和5年度「認知症地域支援推進員研修」	7/25-26	2	WEB
介護職場におけるハラスメント対策	7月27日	1	WEB
令和5年度業種別研修エビデンスに基づく介護技術	7月28日	1	三重県社会福祉会館
副安全運転管理者講習	8月2日	1	四日市文化会館
有意義な会議・ミーティングの運営方法	8月2日	2	WEB
包括支援センター職員基礎研修	8月5日	1	WEB
社会福祉法人の会計書類チェックポイント	8月7日	1	WEB
令和5年度キャリアパス対応生涯研修チームリーダーコース	8/9-10	1	三重県社会福祉会館
包括支援センター職員基礎研修	8月12日	1	WEB
ケアプランに求められる思考過程	8月19日	1	WEB
令和5年度地域支援権利擁護支援研修1日目	8月25日	1	三重県社会福祉会館
高齢者の体重減少を止める食支援	8月25日	1	WEB
包括支援センター職員基礎研修	8月26日	1	WEB
令和5年度喀痰吸引など指導者養成研修	8/29 10/4	1	三重県社会福祉会館
令和5年度三重県福祉栄養士研究会研修	9月6日	1	三重県社会福祉会館
法的根拠を押さえたケアマネジメント	9月11日	3	WEB
中堅職員コース研修	9/12-13	1	三重県社会福祉会館
コーチング技法	9月22日	1	WEB
令和5年度北部圏域事例検討会	9月28日	1	WEB
認知症実践者研修	10月3日	2	WEB
伝える・伝わる力向上研修	10月11日	1	WEB
認知症実践者研修	10/11 10/18 11/7-8	2	WEB
中堅職員コース研修	10/12-13	1	三重県社会福祉会館
包括職員課題別研修	10月17日	1	WEB
21世紀委員会による介護に関する研修会	10月27日	2	三重県総合文化センター
令和5年度キャリアパス対応生涯研修「初任者コース」	11/1-2	1	三重県社会福祉会館
生活リハビリに関する研修会	11月14日	2	三重県総合文化センター
介護施設等における防災リーダー及び業務継続計画(BCP)策定研修	11月15日	1	三重県社会福祉会館
SNS 発信研修	11月28日	2	津
JS フェスティバル	11/29-30	1	岐阜
令和5年度キャリアパス対応生涯研修「初任者コース」	11/29-30	1	三重県社会福祉会館
監事専門講座	11/29-30	1	WEB
令和5年度 三重県福祉栄養士研究会研修	11月30日	1	三重県社会福祉会館
権利擁護研修	12月5日	1	WEB
施設ケアマネ研修～ケアプランを中心に～	12月9日	1	アスト津

レジリエンス研修～ストレスを乗り越え、より強い心へ～	12月12日	1	WEB
主任ケアマネワーキング	12月12日	1	WEB
認知症ケア研修～科学的根拠に基づいたBPSD改善の実践ワークショップ	12月13日	3	三重県総合文化センター
「感情マネジメント」で疲れた心を作る	12月15日	1	WEB
依存症 Web セミナー研修	12月15日	1	WEB
認知症介護指導者研修	12/21-22 1/11・16・23	1	WEB
R5 年度認知症初期集中支援チーム員研修	1月13日	1	WEB
三重県介護支援専門員協会第三回研修	1月18日	1	WEB
レクリエーション・リーダー講習会	1月26日	1	三重県社会福祉会館
認知症疾患医療センター全国研修	1月27日	1	WEB
決算セミナー	1月30日	1	WEB
虐待防止研修	1月31日	1	WEB
長寿社会開発セミナー	2月3日	2	WEB
給食施設従事者研修	2月6日	1	WEB
支援困難事例への対応力向上を目指して	2月17日	1	WEB
認知症サポーターキャラバンについて	2月17日	1	WEB
高齢者見守り活動の効果的な実施について	2月28日	1	WEB
「BCP」業務継続計画と虐待・身体拘束	2月29日	1	ジェフリーすずか
災害時福祉支援リーダー養成講座	2月29日	1	三重県総合文化センター
若手社員向けコミュニケーション能力向上研修	3月11日	1	三重県教育文化会館
福祉職員向けモチベーションアップ研修	3月21日	1	WEB
行方不明にならずに安心して外出を続けられるまちづくり	3月22日	1	WEB

72回 延べ85名





# 安全衛生

## 1. 防災対策振り返り

法人内の BCP(事業継続計画)を見直すとともに全事業所作成することができた。今後防災対策委員会を中心として、有事の際に対応できる組織作りに今後重点を置く。年度末に実施した防災訓練では、行政・地域住民参加で行った。今後も防災訓練を通じて、南海トラフ大地震、火災対策を行っていく。

### 課題

災害時の初動対応を全職員が共通認識を持つように役職者を中心に周知を図っていく。メールでの緊急参集訓練で来れる職員来れない職員の集計を取った。実際に最少人数でどこまでの支援を行っていくかを今後具体的に言語化して職員間で共通認識として持つようにする。

## 消防・設備機器メンテナンス実施内容

### ① 定期実施

- 消防訓練（総合訓練 5 回 部分訓練 6 回）
- 浄化槽点検（大栄管清土木 1 回/月）・電気設備機器保守点検（日本テクノ 1 回/2 ヶ月）
- エレベーター点検（SEC EV 1 回/2 ヶ月）・自主建築検査（防火管理者 1 回/月）
- 厨房消毒（ダスキンエスプリ 1 回/偶数月）

### ②年 1 回実施

- 水質検査（三重環境事業団）・受水槽清掃（東産業）・特殊建築物設備等法定検査（藤川設計）

### ③ 業務委託契約に基づいた保守点検

月	実施内容（消防訓練・設備）	
4月	新人職員防災教育	洗濯機・乾燥機保守点検（ビクター商事）
5月	特養消防訓練（避難誘導）	空調機保守点検（トーエネック）
6月	GH消防訓練（総合訓練）	ワックス掛け（ダスキン）
7月	通所消防訓練（総合訓練）	浄化槽汚泥引き抜き（快晴興業）
8月	法人全体消防訓練（通報訓練）	
9月	法人消防訓練（総合訓練） 消防設備法定点検	
10月	法人消防訓練（総合訓練） 特養消防訓練（避難誘導）	洗濯機・乾燥機保守点検（ビクター商事） 浄化槽法定点検（三重環境事業団）
11月	GH消防訓練（通報・避難誘導）	電気設備機器漏電検査（日本テクノ） ワックス掛け・空調機換気扇清掃（ダスキン）
12月	通所消防訓練（避難誘導）	ピット汲み取り（大栄管清土木）
1月	法人消防訓練（通報）	受水槽・高架水槽清掃点検（東産業）
2月		
3月	法人消防訓練（総合訓練） 消防設備法定点検	水質検査（三重環境事業団）

## 2. 施設整備及び修繕等の実施内容

実施なし

### 3. 職員・職場 安全衛生

みんなが気楽に働きやすい環境作り、笑顔の多いストレスフリーな職場、怪我を防止し、労災の無い職場づくり、誰に対しても優しい職員を増やそう、嫌な思いをさせない職場にしよう、を目標に、「働きやすい職場を目指すために何ができるか」事業所を超えて話し合う場であることを安全衛生委員として一人一人が自覚をし、非常に前向きに認識し、闊達な話し合いと危険箇所の撤廃、有効な対策を発信することができた。

#### 実施内容

##### 1. 安全衛生委員会の開催 毎月1回 第二木曜 16:00～16:30～ 全12回開催

職員の健康維持と増進、労働安全、労災対策を目的として開催した。

労働災害についてのリスクアセスメントを実施し、再発防止対策を労働局に報告した。

##### 2. 労働環境整備

職場環境別チェック表を使用したチェックを数か月に1回実施し、修繕し安全確保に努めた。

##### 3. 交通安全対策

交通事故報告件数

H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
5件	3件	4件	6件	6件	7件	9件	9件	5件	7件

交通事故は物損事故が8割を占める。職員及び利用者が受傷する事故は発生していない。

##### 4. 腰痛対策:6月、12月に問診票による腰痛検査実施(6/14・12/19)

腰痛あり 6月検査 51.4%、同月前年比 0.1%減。 12月検査 58.9%、同月前年比 9.7%減。

希望者には腰痛予防ベルトを貸与し予防策の一環とすると共に、腰痛予防体操の実行を推奨した。

腰痛予防にスライディングシート・ボードの導入は進んでおり、腰痛対策としての意識は向上している。

##### 5. メンタルヘルス対策・ストレスチェックの実施 (6/1～7/1)

ストレスチェックの基本方針に則り、メンタルヘルスチェックを6月に実施し、100名が受診した。

高ストレス者 13名 割合 11.1%。昨年度より 1.9%増加している。ストレス要因は身体的負担と質的負担、職場環境が高い。産業医との面談指導対象者はいない。面談指導希望者もいなかった。

##### 6. アンケート・調査

働きやすい職場づくりを推進するため、職員の考えや現状理解につなげる調査を行った。

快適職場調査(10/1・10/24) 正規職員対象 77名に快適職場調査を実施。

##### 7. 職員健康診断・予防接種

年2回、6/14・12/19に定期職員健康診断を実施。二次検査を要する職員は23名、再検査結果の提出を求めている。

インフルエンザ予防接種の実施 12月。

新型コロナウイルス予防ワクチン接種 第6回目、7回目各自病院接種。

副反応による体調不調は1日分を特別休暇とした。

##### 8. 有給休暇取得促進

働き方改革推進法による計画有休5日の取得もあり、休暇は取りやすくなっている。快適職場調査結果にも表されてきた。取得率70%を目標とし、61.6%に留まり、昨年より1.3%減少した。

##### 9. 職員の休業・休職

産前産後育児休業取得者2名、子どもの看護休暇の取得者5名、介護休業取得者1名。

育児・介護等に関する休暇・休業の相互理解が進み、浸透してきた。優秀な人材が離職せず、制度を利用しながら仕事と家庭の両立支援ができる事業所としてさらに促進を図っていく。

##### 10. 一般事業主行動計画・次世代育成支援対策の取り組み

次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の取り組み。

子ども参観日はコロナウイルス対策中であり、実施できなかった。

ノー残業デーの実施・・・特養年24回、訪問介護24回、在宅訪問介護以外年24回計画した

## 11. 労働災害

労働災害件数(疑い含まず)

H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
2件	1件	0件	0件	1件	1件	1件	1件	4件	3件

介護現場で転倒等による労災が 3 件発生した。労災は委員会で検討し、ポスターの作成掲示等の再発防止に努めている。

### 今後の課題

#### 1. 安全衛生委員会

産業医へ定期的に又は必要時に報告相談をし、意見やアドバイスを得ているが、労働安全衛生をさらに活性化するため、産業医との連携を強化する。

安全衛生委員会で話し合ったことを全職員が理解し、職員自身が実行する自覚も必要である。そのために安全衛生委員会の存在感を高め、発信力の強化をしていきたい。

#### 2. 労働環境

腰痛が発生しやすい職場であることの意識は向上してきたが、さらに理解を深め、介護機器の導入や自己防衛策の実行と定着をさせる必要があり、介護機器の使用に対する意識改革と導入に至る丁寧な説明を早期に行い、職員の腰痛予防対策を強化する。

ストレス要因の多い職務、職場であることの認識を深めて、ストレス回避、発散できる環境の設置やセルフチェック、ラインによるケアの拡大拡充を行う必要がある。

定期的な見回りを強化し、危険箇所の発見や5S活動、5T管理の推進を行い、安全な職場を継続する。

## 委員会活動

### 1. リスクマネジメント委員会 第2月曜日 10:30～ 2ヶ月に1度開催

委員会目標は【記録を活かす】とし、事故及びヒヤリハットの記録もしっかりと出来るように取り組んだ。事例検討を行うことを掲げていたが、特養のみ1件の検討しか行えなかった。

安全対策については資料が膨大なためなかなか周知に至らなかった。事例検討から、重点的テーマを委員会で明確にし、法人内で対策について伝達・共有していく。

コロナウイルス感染症が5類に移行したため、救急法の講習を実施できるように進めていく。

### 2. 身体的拘束廃止委員会 第3火曜日 10:30～ 年間8回開催

今年度はスリーロックの話や、介護保険指定基準上の「やむを得ない理由」の要件など身体拘束廃止委員会内での勉強会や、不適切ケアの具体例をあげ、取り組んだ。

身体拘束や虐待を受けやすい人は、コミュニケーションが困難で、認知症の方が多いため、「わからない」「出来ない」など相手が捉えがちになり、人としての権利がないがしろされやすいことから、権利擁護的な視点から考えることも行った。

現在、身体拘束はゼロであるが、今後も身体拘束をしないケアしていくために、身体拘束をしなければならない原因の追求と基本的なケアの徹底、より良いケアを実現する目標を立てて、身体拘束や不適切ケアをゼロの取り組みと身体拘束の中身についての知識向上が必要である。

### 3. サービス向上委員会 第2木曜日 15:30～ 年間10回開催

多事業所の委員メンバーが集まり、利用者本位のサービスを提供するため、発信できることを皆で話合った。①「接遇マナー5原則」を全職員が取り組めるよう工夫としてユニークなポスターを毎月掲示し職員の意識を高めた②「葉っぱに想いをのせて～」利用者様の幸福感や満足を考えて、わたしたち職員の行動や実践を発信共有する機会をとのことから、全職員に葉っぱに想いを記載しひとつの大きな貼り絵を完成させた。③他法人のサービス向上委員会を調べる。各々調べ集まった上位3位を決め、次年度参考とした。

委員会キャッチコピーは「みんなで enjoy～ご利用者も職員も～」で他事業者が集まりご利用者様について話し合うことはお互いが刺激になりかけがえのない時間を共有できた。

### 4. 感染対策委員会 第3木曜日 15:45～ 年間9回開催

本年度のキャッチコピーは「手洗い・消毒・思いやり」とした。各事業所において委員による食中毒予防啓発活動から開始した。感染予防対策シミュレーションは新入職の職員を参加対象とし、本町2.3丁目フロア全入所者様が感染者もしくは濃厚接触者という設定で食事の提供時の対応を行った。シミュレーションから感染時対応の疑問や課題が浮き彫りになり、感染症発生時のマニュアルの修正を一部行った。またノロウイルス吐物処理研修では、訓練を繰り返す行う重要性を認識した。今後も感染症を持ち込ませない対策、持ち込みがあったとしても最小限とどめることが出来るよう感染拡大予防を考えた、根拠の周知・手技の習得に関しての実演研修を継続し行っていく。

### 5. 広報委員会 第3金曜日 10:30～ 年間7回開催

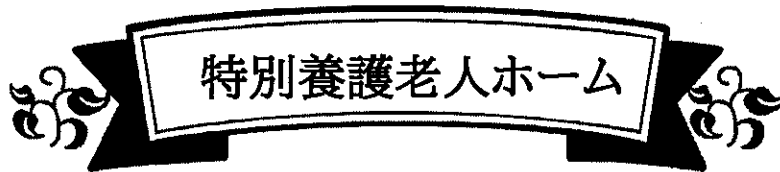
今年度の目標を「家族様・地域の方々へ向け、ホームページ等での情報発信に取り組みます」と定め、一年間取り組みを行った。

くすのき新聞と増刊号を作成、発行を実施。作成以外の月には、ホームページへの掲載写真必須月とし、各事業所の情報発信を細目に行った。ホームページを見て、細目に更新しており楽しそうに感じたという外部の方々の意見も頂戴した。

今後の課題は、若い世代（就職）へのアピールとして職員の生き生きと楽しそうにしている写真や福利厚生等についてももっとアップ数を増やすこと、写真のリアルタイムでのアップを目指すこと、ハード面での改善を行う必要がある。

#### 6. 研修委員会 第3水曜日 10:30～ 年間9回開催（記録回覧1回）

特養とGHでは15分動画研修を中心に、他の事業所では事業所別の研修や勉強会を実施。動画研修について、介護はフロア別に担当者がついて受ける研修の発信と報告書の回収を行うことで提出率が高くなったが、受けていない職種があったので次年度は多くの職種が研修を受けられるように引き継ぎを行った。特養では報告書を提出すれば良いという空気間がり、そこから脱却するため、次年度より伝達者も受講者も理解が深まるよう、ひとりの職員が研修を受けて伝達する方法を進めていく。



## 目標：利用者様・家族様の意向に沿ったケアの実践

### 1. 上質なサービスの提供

- ・法人理念、私たちの誓いを朝礼やフロアミーティング等で唱和し、意識づけを行うことができた。サービスの質向上のために法人理念・私たちの誓いに沿ったケアを役職者が手本を見せて実現した。
- ・毎月、多職種間会議を実施し課題と目標に対する行動を明確にできたが、内容が実績検討中心になってしまったため、次年度会議内容について見直しを図る。
- ・利用者、家族の意向の確認が不十分であった。利用者、家族とコミュニケーションを図り、意向の再確認をする。
- ・ケアプランを意識できるようになった。サービスの質向上のために介護技術・接遇マナーの向上に施設内外の研修・自己研鑽に努めていく。
- ・看取り、リスクマネジメント、身体拘束廃止については定期的に話し合うことができた。施設での看取りをする利用者様への丁寧な説明を行い、安心安寧な支援を行う。リスクマネジメントは、事故・苦情対策から事例検討を行った。身体拘束においても事例の検討と施設内の身体拘束ゼロを達成した。
- ・ターミナルケア 年間5人。

### 2. 経営基盤の強化

- ・空床から1週間以内の入所目標を立てたものの入院や死去が重なり対応が追いつかなかった。
- ・業務内容の見直し・改善は出来ている職種と出来ていない職種があった。生産性向上、業務・備品のムリムダムラを省くためにスケジュール管理、5S活動の徹底が必要。
- ・感染シミュレーションがスムーズに行うことができなかった。職員の役割分担、指示命令等の改善すべき点がみえたので次年度に活かす。換気と消毒の意識は上がり、コロナウイルス感染症の予防にもつながった。
- ・誤嚥性肺炎での入院者13名。褥瘡での入院者は0名であった。誤嚥性肺炎の予防として、嚥下体操・口腔ケアを中心に強化していく。褥瘡についても栄養・清潔・ポジショニング等で予防していく。
- ・特養の待機者状況の把握ができていないもの、人員不足・迅速な入所前調査及び面談ができず、スムーズな入所ができなかった。多職種間での連携により、入退所対応を行っていく。
- ・褥瘡加算・排泄支援加算の加算取得のために計画書の作成の準備、多職種間での協働と連携で次年度算定に向けた取り組みができた。

### 3. 地域との関わり

- ・出前・WEB講座、各種会議に参加し施設の情報発信を行った。地域に向けての発信を広報誌等活用し、さらなる情報発信の強化を行っていく。
- ・地域の方々と顔を合わせた際に元気な挨拶はできている。今年度は、防災訓練を地域住民・行政と行ったことで顔の見える関係作り一歩進めることができた。今後も定期的に行い、災害時の福祉避難所としての役割を果たしていく。
- ・各学校より実習生を7名受け入れ、次世代の育成を図った。

### 4. 職員満足度向上

- ・職員一人一人が健康管理の意識を持ち行動した。身体的負担の軽減・腰痛防止の取組として、移乗やオムツ交換の方法などの見直しを行った。面談で心身の状態を確認して、面談者からの助言や業務内容の見直しを行った。一人一人十分にケアできるように今後も取り組む。
- ・今年度も昨年度の育成方法と同じエルダー制で行った。結果として新卒者の全員定着、特養の正規職員の退職が0人であった。今後職員同士で認め合える風土を創るために役職者が率先してすべきこととして一般職への承認を行っていく。
- ・他職種への理解を深め、利用者様のより良いケア実現に向けて声をかけ合える関係構築に努めた。
- ・介護ロボット（リフト）を導入し、ノーリフティングケアを始めた。今後全ての職員がマスターでき

るように取り組む。ICTの活用については、次年度の課題として残った。

- ・施設内外の研修へ積極的に参加したが、その研修で得た知識や技術を介護サービスの向上に十分に活かせていなかった。
- ・年2回の面談、人事考課、職務チェックシートを活用して人材育成に取り組むことができた。
- ・計画的に有給を取得し、有給取得率は上がった。

## 5. 入所待機者の状況

### (1) 入所待機者数

申込者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
申込者数	4	5	5	4	11	5	5	0	7	4	4	4	58
待機者数 (月始)	76	79	66	70	67	63	42	47	47	31	35	41	平均 55.3
待機者数 (月末)	79	66	70	67	63	42	47	47	41	35	41	37	平均 52.8

※8月に入所待機者宛に状況確認調査を実施。

### (2) 入所申込者の状況

(令和6.3.31現在)

	年 齢 別					介 護 度 別				
	65歳 未満	65～ 79歳	80～ 89歳	90歳 以上	合計	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男	2	5	11	1	19	0	12	3	4	19
女	0	5	10	3	18	0	8	8	2	18

### (3) 入所申込者の居住状況

	自宅	老人保健施設	病院	グループホーム	養護老人ホーム	その他施設	合計
男	7	0	5	1	0	6	19
女	4	1	3	3	1	6	18

## 6. 入所者の状況 年間延べ利用者数 27,636人

### (1) 入退所状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	2	1	2	2	2	5	5	2	2	2	0	3	28
退所者数	1	1	1	4	4	6	2	1	3	2	2	1	28
入所者数 (月末)	78	80	80	79	78	77	80	80	79	78	76	78	

### (2) 入所前の居住状況

	自宅	老健施設	病院等	グループホーム	養護老人	その他	合計
男	4	0	7	1	0	12	24
女	16	3	5	5	0	25	54
合計	20	3	12	6	0	37	78

(3) 退所者の退所理由とその原因

	死 亡		長期 入院	呼吸器 系疾患	循環器 系疾患	消化器 系疾患	腎泌尿 器疾患	老衰	不明	他施設 入所
	施設	病院								
男	3	3	3	2	2	1	1	1	0	0
女	8	6	7	3	2	2	0	6	0	1
合計	11	9	10	5	4	3	1	7	0	1

(4) 入所者の年齢

年 齢	年 齢 別					平均 年齢
	65歳 未満	65歳 ～ 69歳	70歳 ～ 79歳	80歳 ～ 89歳	90 歳～	
男	0	1	8	11	4	84.5
女	0	0	13	27	14	

(5) 出身地別

	出 身 地 別							
	市 町 村	鈴 鹿 市	亀 山 市	四 日 市 市	津 市	度 会 町	岐 阜 市	名 古 屋 市
男	22	0	2	0	0	0	0	0
女	48	1	1	1	1	1	1	1

(6) 入所者の要介護度別

介護度	1	2	3	4	5	計
男	0	2	1	15	6	24
女	1	2	14	18	19	54

(7) 在園期間

年数	1年未満	1～2年	3～5年	6～10 年	11年 以上
男	6	9	3	3	3
女	11	13	17	10	3

(8) 日常生活自立度

ランク	J	A1	A2	B1	B2	C1	C2
男	0	0	2	5	10	2	5
女	0	2	7	10	19	5	11

(9) 認知症高齢者自立度

ランク	自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	V
男	0	0	0	6	3	6	9	
女	0	1	2	5	8	15	23	

7. 実施した主な行事

月	内容	月	内容
4月	・誕生会 ・花見 ・手作りおやつ	10月	・誕生会 ・ハロウィンイベント
5月	・誕生会 ・家族会役員会 ・ボーリング大会	11月	・誕生会 ・長寿を祝う会
6月	・かき氷 ・手作りおやつ	12月	・誕生会 ・フロア別クリスマス会
7月	・かき氷 ・誕生会 ・夏祭り ・家族会総会	1月	・誕生会 ・初詣（椿神社、深田神社）
8月	・誕生会	2月	・誕生会 ・バレンタイン
9月	・彼岸法要 ・敬老の日のお祝い ・誕生会	3月	・彼岸法要 ・ねじゃか祭り

8. 実習生の受け入れ

鈴鹿オフィスワーク介護実習Ⅱ	: 7月4日～8月9日	2名
高田短期大学介護実習Ⅲ	: 2月10日～3月10日	2名
石薬師高校インターンシップ	: 7月26日～7月28日	1名: 中止
千代崎中学職場体験	: 11月7日～11月10日	2名
三重県社会福祉協議会	: 2月9日～2月10日	1名



## 9. 看護業務

### (1) 病院受診

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
高木病院	23	17	39	45	67	63	24	33	38	19	17	23	408
腎クリニック	9	12	11	8	17	5	2	5	7	5	6	7	94
中央病院	4	4	6	2	6	5	2	8	2	2	4	6	51
回生病院	0	2	0	0	0	2	0	0	0	2	1	0	7
しま皮膚科	2	2	3	2	3	1	1	0	1	4	4	3	26
スマイル眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
膠原病	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	6
尾池整形	1	1	0	0	1	0	1	2	1	0	0	0	7
厚生病院	2	0	2	0	3	2	1	4	2	3	1	3	23
ますずがわ神内	0	0	0	2	0	0	0	1	0	3	3	1	10
村瀬病院	0	1	1	1	0	0	0	1	1	0	2	6	13
大木歯科	2	1	4	2	2	0	0	0	2	1	0	1	15
その他	1	2	0	0	2	1	2	1	7	1	4	2	23
計	45	43	67	63	102	80	33	55	61	40	43	53	685

(8月高木病院受診件数 67 件のうち 36 件は代診・電話上申で薬の処方)

(9月高木病院受診件数 63 件のうち 41 件は代診・電話上申で薬の処方)

※R5年7月末～8月14日 発熱伴う感冒の感染者 14名 (本町2.3丁目)

R5年8月18日～8月29日 発熱伴う感冒の感染者 8名 (新町2丁目)

R5年9月10日～9月20日 発熱伴う感冒の感染者 10名 (本町1丁目) があり8月9月件数増加。

※多種疾患あり専門医への相談を要する入所者様が増えている傾向にある。

※入院対応・・・30件

軽快退院し入所継続	12件 (40%)
入院の継続にて退所	9件
死亡	9件

※入院件数は昨年度 19 人に対し 11 人増であった。内容としては、肺炎（誤嚥性肺炎）が 13 件と最も多く、次いで心不全急性増悪と尿路感染からの悪化が 3 件。他、脳梗塞や脳出血、消化管出血など急な疾患であった。肺炎（誤嚥性肺炎）に関しては 13 件（11 人）中、7 件（6 人）は自力摂取されている方であった。この結果より日々の生活・支援の中で会話を増やし、歌を歌うなどの機会など含め、多種職で嚥下機能低予進行の予防にこれまで以上に取り組んでいく必要がある。

※入院期間に関して 60 日以上であったのが 7 件。うち 2 件のみが施設に戻られた。

### (2) 健康管理

※4月 血液検査（糖尿病 11 名、貧血治療者 9 名、その他栄養状態観察者 3 名）・・・23 名施行

※9月 胸部レントゲン撮影（結核検診）・・・入所者様全員

要経過観察 14 名、要精密検査 5 名 精密検査の結果は結核を疑う入所者様はいない

※11月 健康診断（血液検査）・・・入所者様全員

### (3) 褥瘡への取り組み

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
車椅子時ズレ圧迫	5	10	8	9	5	6	5	6	7	3	3	4	71
臥床時の圧迫	7	5	3	2	2	3	3	5	4	3	5	3	45
その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
発生数	12	15	12	11	7	9	8	11	11	6	8	7	117

※褥瘡への取り組み

- 機能訓練指導員と介護・看護で車椅子を本人様の身体や姿勢に合ったものへの変更と座面の工夫、栄養士より栄養状態の把握と栄養面からのアプローチ、日々予防のため介護・看護により皮膚状態

チェックと皮膚保護軟膏塗布など多種職で取り組んでいる。

- 2) ポジショニング研修に介護職員が参加しており機能訓練指導員、看護共に褥瘡予防のためのポジショニング・シーティングの工夫を取り組み、「褥瘡0」を目指して継続していく。

#### (4) 感染症罹患者

※R5年11月3日～11月8日、インフルエンザA感染者発生4名（本町2.3丁目フロアー）  
（うち1名重症化 肺炎で入院）

※R5年11月29日～12月5日、インフルエンザA感染者発生8名（新館3丁目フロアー）

#### (5) 感染予防対策

※予防接種・・・R5年6月、10月 コロナワクチン接種(利用者様・職員)

R5年11月末～12月 インフルエンザワクチン接種(利用者様・職員)

- ※感染対策・・・1) 施設全体で朝の一斉掃除(消毒)、換気の実行・継続への働きかけ。  
2) 職員の健康チェックとして出勤時の検温・症状観察を記録の継続。  
3) コロナ抗原検査の活用。  
4) 感染拡大予防のため、発生時の昼食時対応シミュレーションを行う。  
5) ノロウイルス嘔吐物処理実演研修を行う(参加者4名)

### 10. 個別機能訓練、生活機能向上連携

個別機能訓練計画に沿って、ひとりひとりに必要な機能訓練は、機能訓練指導員を中心に多職種で取り組んだ。特に立位動作・歩行機能の低下進行予防、維持に関して重点的に訓練を継続して行っており、入所者様の生活の中で自力歩行の維持、トイレ使用の維持には成果が出ている。

外部クリニックの理学療法士が週に1回来園し、機能訓練指導員を中心に日常生活上の留意点や介護の工夫などアドバイスを受け、個別機能訓練計画書に反映をした。

課題として疾患により関節の拘縮・変形の進行、また認知機能低下の進行が防ぎきれない。生活リハビリへの取り組みを行い日常生活動作低下進行予防・維持、認知症進行予防などを意識し、多職種連携で実行と継続を目指していく。

### 11. 栄養・食事の提供

#### (1) 工夫した食事提供の実施

※ターミナル時の食事提供をご家族と他職種で検討。最期まで楽しんでいただけるように食事の出し方など工夫を行った。

※季節を感じられる献立作りに努めた。

※給食会議で他職種と意見交換し、利用者様に喜ばれる食事提供に活かした。

※新型コロナウイルスを想定し、使い捨て食器使用での食事の提供を行うシミュレーションを実施した。

#### 行事食実施状況

行事名	内容	実施日	回数	対象者
海鮮どんぶり	お刺身を楽しむ	4月5日	1回	特養・短期・通所
端午の節句	節句料理(昼食)と和菓子	5月5日	1回	特養・短期・通所
親子ちらし寿司	ちらし寿司(昼食)	5月11日	1回	特養・短期・通所
プチ贅沢	天ぷら盛合わせ	6月19日	1回	特養・短期・通所・GH
涼を感じる	星のラーメン(昼食)と和菓子	7月17日	1回	特養・短期・通所
土用丑の日	うなぎ丼(昼食)	7月30日	1回	特養・短期・通所
敬老のお祝い	松華堂弁当(昼食)	9月15・16日	2回	通所
敬老の日	お祝い食(昼食)	9月18日	1回	特養・短期・通所
長寿のお祝い	お祝い弁当(昼食)	11月5日	1回	特養・短期・通所・GH
クリスマス	クリスマスケーキ(おやつ)	12月25日	1回	特養・短期・通所

大晦日	年越しそば（夕食）	12月31日	1回	特養・短期・GH
おせち料理	新年のお祝い料理	1月1・2日	2回	特養・短期・GH
新年のお祝い	松華堂弁当（昼食）	1月4・5・6日	3回	通所
七草粥	七草粥（朝食）	1月7日	1回	特養・短期
小正月	小豆粥（朝食）	1月15日	1回	特養・短期
節分	恵方巻き（昼食）	2月3日	1回	特養・短期・通所・GH
海鮮ちらし寿司	お刺身を楽しむ	2月7日	1回	特養・短期・通所
ひな祭り	親子ちらし寿司（昼食）	3月3日	1回	特養・短期
にぎり寿司	にぎり寿司（昼食）	3月11日	1回	特養・短期・通所
春の和菓子	五平餅風・桜餅風（おやつ）	3月14日	1回	特養・短期
誕生会	誕生日メニュー（昼食）	毎月	12回	特養・短期

## ② 栄養ケア・マネジメントの実施

※ミールラウンド（3回以上/週）を行い、利用者の食事行動・意欲・姿勢など他職種と連携をとり、丁寧な栄養ケア・マネジメントの工夫を行った。

※食事や水分量だけでなく、姿勢や飲み込み具合など、個人の状態をみて介助食器や栄養食の検討を行った。

※スクリーニング・アセスメントにより、その要因を他職種と相談検討を行い、食事提供や栄養食など改善に向けての工夫を行った。

※ご利用者の栄養状態のみならず健康状態など、多角的に検討するように努め個人に適した栄養の継続と維持に努めた。

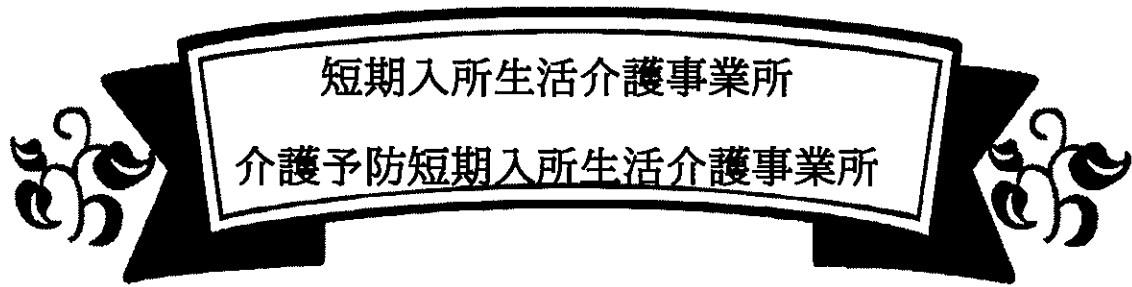
### 栄養ケア・マネジメント（低栄養状態のリスク状況）

	低リスク者（人）	中リスク者（人）	高リスク者（人）	退所者（人）	新入所者（人）
4月	32	35	14	1	2
5月	31	34	13	1	1
6月	33	30	14	1	2
7月	33	34	11	4	2
8月	35	34	7	4	2
9月	34	37	6	6	5
10月	32	36	9	2	5
11月	32	32	14	1	2
12月	35	30	13	3	2
1月	36	31	11	2	2
2月	34	32	11	2	0
3月	33	34	11	1	3
計	400	399	134	28	28

## 12. 今後の課題

- ・利用者のQOL向上に向けて、食事・入浴・排泄・アクティビティ活動等、多角的な視点から多職種での連携を強化し、同じ目標に向かって支援ができる体制を強化していく。利用者様の意向に職員一人一人が向き合いサービスの質向上に努めていく。
- ・多職種会議の検討内容は、より利用者の生活の質向上に向けた内容とすべく見直しを図る。
- ・平時より各関係機関、入所希望者との連絡を取ることで迅速な入退所の対応を行う。
- ・感染症発生時のシミュレーション・換気・消毒を徹底しコロナウイルス・インフルエンザ等感染対策を継続し、施設内のクラスターを防ぐ。
- ・5W1Hを意識した記録を残し、記録の質向上を図る。日々の生活の中の記録を残していく。
- ・褥瘡加算、排泄支援加算を厚生労働省へのデータ提出し、加算を算定する。

- ・腰痛予防・安全な移乗介助のためにノーリフティングケア（介護ロボット活用・腰痛ベルト着用）を進めていく。介護ロボットの使用方法を全職員がマスターする。
- ・施設内外の研修に参加して得た知識・技術を利用者のケアにつなぐ。
- ・疾患により関節の拘縮・変形の進行、認知機能の進行予防のために看護・介護・機能訓練指導員で連携を取り、生活リハビリを実行・定着する。
- ・感冒やインフルエンザの感染であっても高齢者は重篤化しやすい。昨年に引き続き感染症発生予防の継続と感染拡大予防を念頭に置き平常時からの対策の実行。
- ・身体異常の早期発見と、嘱託医と連携をとり早期治療を行うことで重度化防止し安心した入所生活の継続、また入院加療が必要となった場合でも病状軽快され施設に戻り入所生活の継続ができるよう対応を行っていく。
- ・今後利用者様の嗜好が明確化されていく時代に、どのようにして満足度を上げていくか委託会社との話し合いが大切である。
- ・楽しく、食べていただける食事環境づくりを多職種で模索していく。
- ・不足しがちな栄養素をいかに摂っていただけるか、献立・摂取方法を改善していく。



定員10名 特養併設型空床型

目標： 利用者様・家族様の意向に沿ったサービスを実現する

#### 1. 上質なサービスの提供

- ・利用者様・家族様の意向に沿った計画書の作成を作成し、質の向上・個別ケアに取り組むことができた。
- ・関係機関との連携を図ることができたが、家族様の事情などにより在宅生活の継続が困難な事例が多かった。
- ・持ち物管理を徹底する為に、ショート専用ロッカーを購入した。個々に気を付ける事などを記入するよう工夫したことで忘れ物は減ったがゼロにはならなかった。また、記名されていないこともまだ見受けられる。
- ・ショートステイ送迎時の事故はゼロだった。
- ・相談員の異動や退職などもあり十分な相談員業務が行えない状況であった。

#### 2. 経営基盤の強化

- ・稼働率は、101%。特養入所者様の入院時における空床利用の活用結果と思われる。
- ・法令遵守、個人情報やプライバシー保護を意識し、人権尊重に努めた。
- ・感染症対策は継続して行うことができた。
- ・年間のべ利用者数 3766 人

#### 3. 地域との関わり

- ・行政・医療・地域・介護と情報共有・連携することで緊急ショートステイ、ロングショートが増えている。虐待ケース、鈴鹿市緊急一時保護措置入所の受け入れを積極的に行った。

#### 4. 職員満足度向上

- ・5S活動は充分に行うことができなかった。
- ・ご家族及び居宅介護支援事業所ケアマネージャーと報告連絡相談を密にし、予約表管理を複数の職員で対応した。空き状況を常に把握し、様々な理由でショートステイの利用ご希望に添える努力を行った。ショートステイの利用を通じ、利用者様及び家族様の在宅生活が安定し活性化に繋がっていることを実感している。
- ・短期間で様々な背景を持つ利用者様が入れ替わり利用される。利用者情報を共有し、複数の職員が協働することにより、ストレスを生じさせないようにした。

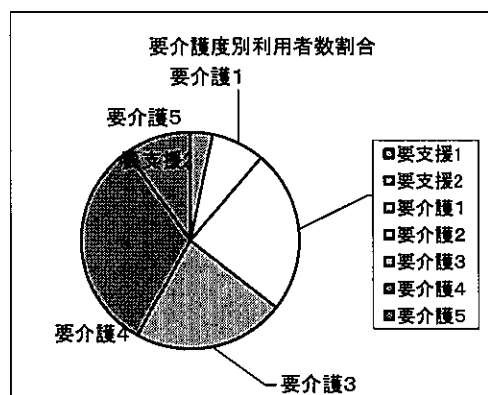
#### 今後の課題

- ・利用中の記録に5W1Hを意識する。記録用紙の見直しを行っている。
- ・利用者様満足度調査の継続。

特養併設(空床利用) 指定短期入所事業 定員 10 名

月	受入日数	1日当たりの利用者数	利用者数									食事提供日数			送迎			初利用者受入人数	空床利用者数 日数
			人数計	要介護度別					食数計	有	無	総送迎数	迎	送					
				申請中	予防2	予防1	1	2							3	4	5		
4月	276	9.2	276		6		20	49	99	59	43	190	190	0	32	17	15	2	59
5月	272	8.774	272		7		31	53	79	94	8	311	311	0	55	28	27	4	23
6月	280	9.333	280		17		19	63	45	136		252	252	0	39	20	19	1	33
7月	263	8.484	263		6		21	80	35	118	3	220	220	0	28	14	14	1	58
8月	360	11.61	360		10		26	111	29	118	66	260	260	0	48	25	23	3	82
9月	342	11.4	342		6		10	95	70	115	46	234	234	0	45	24	21	5	95
10月	304	9.806	304		8		17	74	71	85	49	282	282	0	48	28	20	5	65
11月	291	9.7	291		11		20	76	40	74	70	298	298	0	56	29	27	2	39
12月	301	9.71	301		11		38	84	77	59	32	241	241	0	69	39	30	4	32
1月	327	10.55	327		22		16	84	100	79	26	132	132	0	64	31	33	4	39
2月	346	12.36	346		13		41	89	97	102	4	245	245	0	86	48	38	7	98
3月	404	13.03	404		9		38	60	105	170	22	237	237	0	90	46	44	2	143
合計	3766	10.32	3766	0	126	0	297	918	847	1209	369	2902	2902	0	660	349	311	40	766

要介護度別実利用者数構成率	延べ利用者数	
要支援1	0%	0
要支援2	3%	126
要介護1	8%	297
要介護2	24%	918
要介護3	22%	847
要介護4	32%	1209
要介護5	10%	369
合計		3766



月	営業日	受入日	利用率	平均 要介護度	介護保険 利用料収入	滞在費 収入	食費 収入	全額自己負担 収入	前年度比
4月	300	276	92%	3.14	2,560,070	324,912	392,835	28,561	114.6%
5月	310	272	88%	2.90	2,831,036	355,654	446,650	26,877	108.2%
6月	300	280	93%	2.94	2,607,521	322,169	401,670	45,522	121.2%
7月	310	263	85%	2.94	2,426,275	282,362	357,005	47,198	94.9%
8月	310	360	116%	3.16	3,725,901	387,254	474,705	60,986	152.1%
9月	300	342	114%	3.22	2,034,905	252,015	299,415	57,930	98.5%
10月	310	304	98%	3.17	3,117,595	342,808	418,800	52,360	118.6%
11月	300	291	97%	3.22	3,590,099	418,736	518,515	63,343	128.3%
12月	310	301	97%	2.77	2,852,716	370,967	420,795	61,327	138.3%
1月	310	327	105%	2.84	2,658,071	328,403	390,595	26,547	218.6%
2月	290	346	119%	2.71	3,300,899	391,345	478,930	40,697	140.2%
3月	310	404	130%	3.13	3,891,150	435,329	595,650	58,142	168.1%
合計	3660	3766	103%	3.01	35,596,238	4,211,954	5,195,565	569,490	129.6%
平均	305	313.8	103%	3.01	2,966,353	350,996	432,964	47,458	133.5%

# 通所介護事業所

## 介護予防・日常生活支援 総合事業所

**目標 : 愛ある KAIGO～全ての人の中心に I を～**

**1. 振り返り : 通所介護事業 定員35名**

年度初旬は稼働率も良く、良いスタートを切ったが中旬より徐々に稼働率が低下。職員の士気も低下していき、目標年間利用者数 9000 人を達成することができなかった。下旬より再構築を図り、徐々に稼働率も向上したが以前同様までは戻すことができなかった。

提供するサービスに関しては、機能訓練による筋力低下予防に取り組み、前年度より内容が向上している。

接遇に関しても継続し、職員間の接遇価値観のズレが生じないよう、定期的にチェックシートを実施し乱れのないよう取り組んだ。

**<上質なサービスの提供>**

目標	結果
法人内外の事業所との連携	電話・メールを活用して情報共有・連携を図った。
機能訓練による健康寿命の延伸、趣味活動を活かした生きがいづくり	新たにマシン1台を導入し機能訓練フロアの充実を図り筋力低下予防に取り組んだ。また、様々な作品作り等を切れ目なく提供した。
利用者満足度アンケート、事業所満足度アンケートの実施	どちらも総合評価、平均 4 以上。頂いた意見を反映し、次年度取り組んでいく。

**<経営基盤の強化>**

目標	結果
利用者数の確保。稼働率向上	年間延べ利用者数 8777 人。稼働率 97.2%。年間予算未達成。年度中旬より稼働率が低下し、再向上させることができなかった。台風にて1日休園あり。12/31(日)臨時営業。
各種加算の取得	ADL維持等加算 I 算定できず。以外は前年度同様の加算取得。
安全運転を行い交通・物損事故ゼロ	交通・物損事故 4 件

**<地域との関り>**

目標	結果
地域への発信	デイサービス単独での作品展・作品販売、特養家族会にて作品販売、生き生き介護フェスタへの出品、Instagram・ホームページで活動内容の発信を行った。
地域へのデイサービス事業の啓発	通所型 C 事業の運営。今年度 3 クール運営。

**<職員満足度向上>**

目標	結果
新任職員の育成	指導者を付け、それぞれに合わせた速度で 3 ヶ月～半年を目途に指導を行った。
資格取得(社士・介福・CM)の推進。	合格者なし。
チームワーク、一人一人を認め合う職場づくり	上手くチームワークが取れず士気の低下が起こり、利用者数も低下した。再構築が必要となった。
有給取得の推進	以前に比べ取得できているが、職員によってムラがある。
職員満足度向上のため、働きやすい環境を作る	ハード面での改善が不十分。無駄な時間を削減できるよう、環境整備を継続していく。
ミーティング(1回/月)を実施。課題解決等の意見交換を行う。	業務の改善点や次月の目標等を一緒に考え発言を促すことで、当事者意識を高め業務に生かせるよう図った。

## 年間実績

- ・年間利用者数 8777 名                      ・年間利用率 97.2 %
- ・1日平均利用者数 28.2 名(営業日 311 日)
- ・登録利用者平均介護度数 2.2(自立、要支援除く)
- ・介護度別比率 事業対象者: 2.2% 要支援:16.2% 要介護1: 25.3% 要介護2: 25.7%
- 要介護3: 20.9% 要介護4: 7.1% 要介護5: 2.5%

表(1)

	事業・要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
平成 31 年度	9.2%	41.8%	17.7%	10.7%	11.86%	4.7%
令和 2 年度	18.6%	35.4%	19.1%	10.7%	12.4%	3.8%
令和 3 年度	15.9%	34.5%	26.2%	13.9%	6.0%	3.5%
令和 4 年度	14.9%	31.9%	29.6%	14.6%	6.0%	2.8%
令和 5 年度	18.4%	25.3%	25.7%	20.9%	7.1%	2.5%

表(2)

	年間利用者数	営業日	年間利用率	1日平均利用者数
平成 31 年度	9029	309	100.3	29.2
令和 2 年度	8636	311	95.9	27.7
令和 3 年度	9157	311	101.7	29.4
令和 4 年度	9080	310	100.9	29.3
令和 5 年度	8777	311	97.2	28.2

## 年間行事報告

4 月	花見・カップインゲーム 紅白饅頭つかみ取りゲーム	10 月	ハロウィンイベント・手作りおやつ 芋掘りゲーム、陣地引き寄せゲーム
5 月	デザートバイキング キックボリング、フリスビー射的	11 月	運動会・けん玉ゲーム、 紅白対抗玉入れ、タコ釣りゲーム
6 月	デザートバイキング ジャガイモ収穫祭、作品展	12 月	クリスマス会・忘年会、手作りおやつ 作品展(ハンター)冬の収穫ゲーム
7 月	七夕祭り・スイカ割り 紙コップカーリング、ストラックアウト	1 月	初詣・松花堂弁当・ビンゴ大会 手作りおやつ(お好み焼き)
8 月	夏祭り・かき氷・卓上打ち上げ花火 ジャンプシュートゲーム	2 月	バレンタイン手作りおやつ・忍者ゲーム 節分イベント、詩吟発表会
9 月	敬老イベント・松花堂弁当 スラムカップ、ペン立てゲーム	3 月	ホワイトデー手作りおやつ(トライフルケ ーキ)・卒園式お祝い・チーム対抗戦

<毎月行事>誕生会・作品作り・音楽レク・ビューティーデー・散歩・カラオケ・おふろの日

## 2.今後の課題

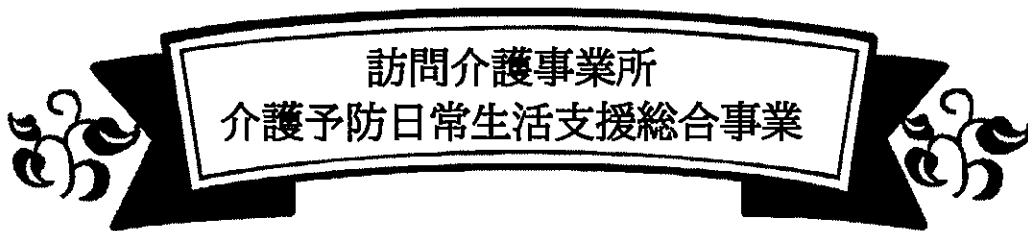
利用者様・職員共に笑顔で過ごせるデイサービスを目指して、原点に立ち戻ることが必要。楽しく、元気に 1 日過ごせる。利用者様を楽しく、笑顔にさせられるには職員が楽しく、笑顔でなければいけない。職員の満足度が向上すれば、おのずと士気も上がりチームワークも良くなるのではないかと。働きやすさをソフト面、ハード面共に向上させるため、次年度、取り組みを行っていく。

利用者数を確保する為、定期的に空き情報の発信をしっかりと行っていく。インスタグラムやホームページでの活動内容の発信も細目に行い、活動を知ってもらう取り組みを強化していく。

機能訓練の時間を更に充実させる。指導員が時間を取れるよう、介護士も連携し実施する。

人材育成を行い、次世代へ続く組織づくりを行っていく。思いを継承し、個々がチーム内での自分の役割・ナンバーワンを見つけ、行動できるようサポートを行っていく。指導する側も個々の能力を的確に把握し、努力を認め、成長を促せるよう働きかける。





目標：根拠に基づいた利用者様の介護支援

目標の振り返りについて

- ・訪問介護は、利用者の生活上の課題解決に向けて生活状態を知り課題を明確に行い、目標別に具体的な支援内容を立案し計画に沿った支援を行うことができた。
- ・日々の支援を重ね、繰り返し訪問し生活課題について関係機関との連携を図って、根拠に基づく支援ができた。

#### 1. 上質なサービスの提供

- ・利用者様との限られた時間の中で良い関係性を維持していくためには、コミュニケーションと関係機関との連携を図り計画書通りにサービスの統一化が図れた。
- ・支援を提供する際の具体的な手順や部屋の間取りを記載し、日常生活の支援に職員が一貫したケアを提供するために、サービス提供責任者が中心となり作成した。
- ・自立支援の取り組みとして、支援を受ける利用者様に寄り添いながらできることは側で見守りしながら行い、ヘルパーと共に掃除や買い物リスト作成し、家事支援が少しでも満足してもらえる様にコミュニケーションを図った。
- ・接遇マナーについては、笑顔で気持ちにも寄り添い、時には相談を受け悩んでる様子や日常生活の気づきには、本人に分かりやすく丁寧に伝えることができた。これは今後も継続していく。
- ・無料体験を5人の方に試していただき、3人の方が契約締結に繋がった。

#### 2. 経営基盤の強化

- ・事業所から半径15分圏内の利用者様に集客し、移動時間を減らすことで多くの支援に入れるように努めた。
- ・安全運転には日頃から法定速度や一旦停止や安全確認は行っていたが、事故1件発生した。
- ・有償運送のサービスができる準備が整った。法人内の居宅介護事業所から問い合わせも数件あったが人員配置や日程調整が合わず支援に繋がることができなかった。

利用実績（令和5年度延べ人数）

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	118	131	122	123	115	110	137	124	109	101	104	81	1375
要介護2	83	81	99	80	78	64	62	70	56	38	35	50	796
要介護3	26	22	21	23	18	13	17	10	21	32	29	23	255
要介護4	52	26	29	26	56	60	58	57	55	45	58	80	602
要介護5	34	37	39	39	39	39	40	49	46	45	42	40	489
要支援1	22	22	24	23	28	29	30	19	19	17	21	22	276
要支援2	50	55	44	48	43	40	44	58	58	54	36	47	577
総合				3	4	5	4	4	4	3	4	5	36
合計	385	374	378	365	381	360	392	391	368	335	329	348	4406

前年比 延べ 240 名増

登録利用者数 45名（前年比 1名減）

新規獲得利用者数 37名

### 3. 地域との関わり

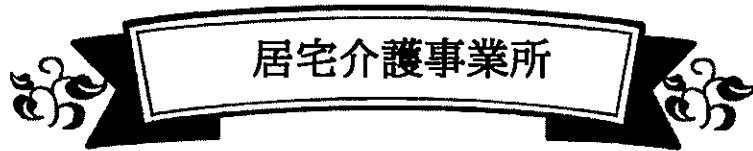
- ・地域・包括・鈴鹿市等と連携しながら、情報共有・発信をした。
- ・ヘルパー事業所からの広報誌の作成はできなかった。

### 4. 職員満足度向上

- ・ハローワーク等を活用した採用活動は、採用につながらなかった。
- ・ヘルパー会議の開催（1回/月）年間研修計画をたてて介護技術の質向上に努めた。プチミーティングを計画的に実施してサービス提供責任者とヘルパーの情報共有や意見交換を行った。
- ・有給休暇の取得推進を図り89.6%取得できた。
- ・職員間の意見交換を頻回に行うとともにお互いが尊重し合うことで、風通し良い職場環境を整えた。

### 今後の課題等

- ・職務チェックシートについて、現在の支援の手順や介護方法に照らし、修正を図る。
- ・利用者満足度調査、ケアマネージャー満足度調査を実施することができなかったため、次年度実施する。
- ・職務チェックシートは80%以上の目標値に達することができなかった。



目標：根拠に基づいた利用者様の介護支援

目標の振り返りについて

- ・利用者様の生活上の問題解決にむけて、生活状態の把握と課題の明確化及び具体的な計画書の立案により、計画に沿った支援を行うことができた。
- ・日々の支援を重ね、繰り返し生活課題について関係機関との連携を図り根拠に基づく支援ができた。

1. 上質なサービスの提供

- ・利用者様との限られた時間の中で良い関係性を維持していくために、コミュニケーション及び関係機関との連携を図り計画通りにサービスの統一化を図った。
- ・支援の際の具体的な手順や部屋の間取りを記載した手順書は、日常生活の支援にヘルパーが一貫したケアを提供するためにサービス提供責任者が中心となり作成した。
- ・自立支援の取り組みとして、支援を受ける利用者様に寄り添いながら出来ることは側で見守り、又ヘルパーと共に掃除や買い物リストの作成など、家事支援が少しでも満足してもらえる様にコミュニケーションを図った。
- ・接遇マナーについては、笑顔で気持ちも寄り添い、時に相談を受けた時は分かりやすい言葉でゆっくり丁寧に伝えることができた。これは今後も継続していく。
- ・無料体験を5件の方に支援させていただき、3件の方が契約締結に繋がった。

2. 経営基盤の強化

- ・事業所から半径15分圏内の利用者様を集客し、移動時間を減らすことで多くの支援に入れるように努めた。
- ・安全運転を心がけて、交通事故ゼロを達成した。
- ・新規契約に至る前にご本人との面談で、ヘルパーが支援に入れるかを見極めてから契約締結を結ぶこととした。

令和5年度利用実績（延べ人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
身体介護	4	11	13	8	0	9	13	10	8	10	7	4	97
家事援助	19	17	17	19	16	19	15	18	17	14	18	20	209
総合計	23	28	30	27	16	28	28	28	25	24	25	24	306

前年比 延べ35名増

登録者数6名（前年比2名増）

新規獲得利用者 2名

3. 地域との関わり

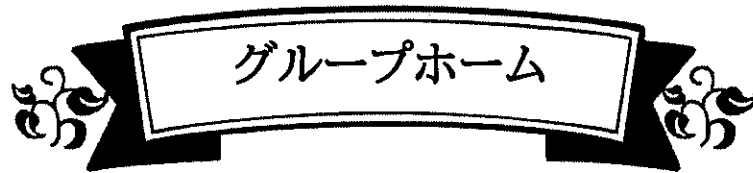
- ・地域・包括・鈴鹿市等と連携しながら、情報共有・発信をした。
- ・ヘルパー事業所からの広報誌の作成はできなかった。

#### 4. 職員満足度向上

- ・ハローワーク等を活用した採用活動は、採用につながらなかった。
- ・ヘルパー会議の開催（1回/月）年間研修計画をたてて介護技術の質向上に努めた。プチミーティングを計画的に実施してサービス提供責任者とヘルパーの情報共有や意見交換を行った。
- ・有給休暇の取得推進を図り、89.6%取得している。
- ・職員間の意見交換を頻回に行い、お互いが尊重し合うことで、風通し良い職場環境を整えた。

#### 今後の課題等

- ・職務チェックシートについて、現行っている支援の手順や介護内容に照らし合わせて修正していく。
- ・重度訪問介護などの資格等、専門的な知識を得る。
- ・利用者満足度調査、支援相談員満足度調査を実施することができなかつたため、次年度実施する。



目標：利用者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、  
健康でその人らしい生活を支援する。

#### 振り返り

コロナウイルスが5類感染症に移行し、今年度はドライブや外に出ていく機会が多くなり、入居者の気分転換や外での散歩など活動が増えた。室内では季節に応じた作品や手作りおやつも増え、日常生活に良い刺激になった。

#### 1. 上質なサービスの提供

職員は動画研修やパーソン・センタード・ケアを一年間通して、勉強し、ケアを行なうだけでなく、その人を良く知ることができた。

事故報告は7件でヒヤリハットは31件報告があった。ヒヤリハットの意識を高め、事故に繋がる手前で対策が検討できたと感じる。また今年度からNeos+Careを導入したことで、居室での事故が減少した。事故が起きた場合は早めに家族様に状況を説明し信頼関係構築を心がけた。

#### 2. 経営基盤の強化

年間稼働率97% 平均要介護度2.3 年間のべ利用者数3902人

空床が出来てから、次の入居まで間が空いてしまった。今後は早期の面談を実施し、入居までスムーズに案内できるように努める。

今年度は継続して、加算の取得はできている。

業務手順の見直しについては、都度見直しができる。

ICTの活用については、タブレットを主とし、特記ファイル申し送りノートには簡潔に記載すると決め、記録に残せることができ、時間を有効に使用できている。

#### 3. 地域との関わり

三重県社会福祉協議会主催する外部評価を受審し公表することで、地域からの信頼度向上に努めた。運営推進会議は2か月に一回定期開催できた。会議の場で現在の取り組みを報告し活動に理解を得るようにした。

面会は居室までは入っていただけないが、多目的ホールで面会を行なった。インフルエンザの流行時には外出の禁止、面会時間の制限の協力を得た。

#### 4. 職員満足度向上

5S活動は担当箇所を決め、職員会議にて振り返りを行なった。今後も継続していく。

言葉づかいと身だしなみチェックを行った。そこから面談を持ち、言葉づかいの振り返り、対応を話し合った。面談時には職務チェックシートを用いて実施した。

① 稼働状況

(単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率	100	100	99.3	94.6	99.3	89.3	85.7	96.7	100	100	100	100

年間稼働率 97%

② 入退居、退居理由

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居(人数)		0	0	0	1	2	0	1	1	0	0	2	0
退居(人数)		0	0	1	0	2	0	2	0	0	0	2	0
退居理由	看取り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	住替え	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0
	長期入院	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

③ 入居者年齢別・性別・要介護度の状況

(単位：人)

		75歳以下	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
年齢別		0	1	1	5	2
性別	男性	0	0	1	1	0
	女性	0	0	0	5	2

平均年齢 88.2歳

(単位：人)

		要支援 1・2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
介護度別		0	2	2	5	0	0
性別	男性	0	1	0	1	0	0
	女性	0	1	2	4	0	0

平均要介護度：2.3

④ 介護事故発生状況

介護事故	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
転倒	1	0	0	0	2	0	0	2	1	1	0	0	7

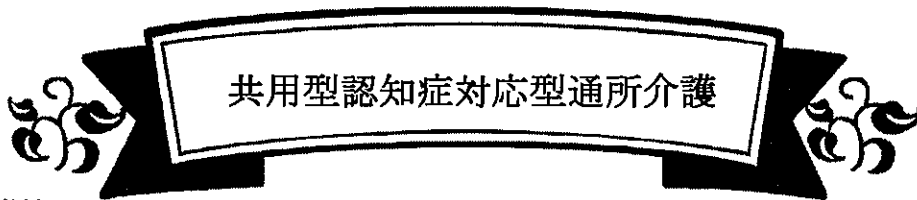
※ヒヤリハットは 31 件報告

⑤ 自炊・行事食

自炊・手作り食		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内容	昼食(行事食)	1	2	1	1	1	1	1	2	2	1	0	1
	おやつ	4	8	9	7	5	10	6	4	5	6	7	5
	夕食	8	9	9	8	8	9	9	8	10	9	7	9

⑥ 行事開催状況

実施月	行事名	実施月	行事名
4月	花見 園外ショッピング	10月	彼岸花ドライブ 畑でイモ掘り
5月	手作りおやつ お茶会	11月	ビンゴ大会 歓迎会
6月	ラーメン作り ミニ運動会	12月	クリスマス会 ボーリング大会
7月	かき氷 手作りあんまん	1月	初詣 新年会 ぜんざい作り
8月	餃子作り スイカ割り 誕生日会	2月	豆まき 外部評価 梅
9月	歓迎会 五平餅作り	3月	寝釈迦祭り くら寿司テイクアウト



目標と振り返り

「利用者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、健康でその人らしい生活を支援する。」を目標に掲げ、居宅介護支援事業所や地域包括支援センター、当法人の通所介護事業所と連絡を取り合い、利用希望の本人の利用前アセスメントをしっかりと行い、体験利用を通じて家族や他の入居している利用者との関係性に配慮しながら、個々の満足が得られるように提供している。

家族、担当ケアマネージャー、他のサービス事業者、そして近隣住民の協力を得られており、認知症の利用者が安心して日常生活を送られるよう事業を行っていく。

くすのき園のグループホームが共用型デイを行っていることを知っている居宅介護支援事業所が少ないのが現状であり、令和5年度より営業を行なったが、稼働率の向上には繋がっていない。

共用型デイサービス

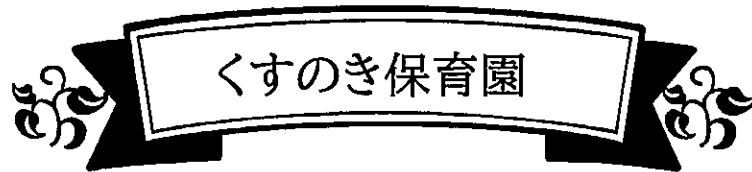
(単位：人)

		75歳以下	75～89歳	90歳以上	要介護1	要介護2	要介護3
年齢別		0	2				
性別	男性	0	0	0	0	0	0
	女性	0	2	0	1	0	1

年間のべ利用者数 411人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率	46.6	46.3	68.1	61.9	47.8	63.4	77.2	62.1	60.8	31.6	28.5	30.1

年間稼働率 52.7%



### 【 保育理念 】

子ども一人一人を大切にし、子どもと共に成長し誰からも信頼される保育園作りを目指す。

### 【 保育方針 】

豊かな表現力を持った子どもに育てる。

### 【 保育目標 】

- ・ 基本的な生活習慣を身に付ける。
- ・ 明るく元気な子どもに育てる。
- ・ 情緒豊かな子どもに育てる。

## 1. 一年の振り返りと今後の課題

運動会、発表会や保育参観、卒園式など保護者参加型の行事は人数制限をしながら行ったが、ある程度人数制限を行いたい園側の考えと保護者側の思いが一致せず、対応に苦慮する1年であった。

ただ、園内のみでの行事では、コロナ前のような形で全園児参加型の行事も行い、異年齢での交流も増やしていった。

### ◎ 職員会議

月1回水曜日の18時より開催

定期的に巡回していただいている心理士による研修など、より実務的な保育の研鑽ができる研修も行ってきた。

### ◎ 避難訓練

毎回、災害の想定を変えて毎月行った。(9月は防災訓練、11月は消防訓練を実施)

警察職員による園児への非行防犯教室も行った。

### ◎ 特養・デイサービスとの交流

今年度も合同での行事实施は中止、デイサービスへの訪問も中止となった。

地域の老人の方とのふれあいの場として有意義な場だったので、いつか再開できればよいと感じる。

### ◎ 外部講師による各種指導

- ・ 剣道指導 … 5歳児のみ。剣道参観(保育参観)を行った。
- ・ 体育指導 … 3~5歳児対象。3歳児は保育参観も行った。
- ・ リズム指導 … 4・5歳児対象。園内の簡易楽器を使用してリズム遊びを行った。
- ・ リトミック指導 … 2・3歳児対象。体を使って音楽リズムに触れあった。
- ・ 絵画指導 … 4・5歳児対象。自由に表現できる場として園児も楽しんで参加。
- ・ 英語指導 … 5歳児のみ。課外教室として希望者は週1回ECC教室に参加。



### ◎ その他

#### ・臨床心理士巡回訪問

2か月に1回訪問。保護者との面談や小学校への引き継ぎもしていただいた。  
心理士による意見書の提出が必要となる補助金申請の際にも対応いただいた。  
また、職員研修の講師も務めていただいた。

#### ・箕田自治体との交流

箕田自治体（水土里会）と今年度も交流を行った。  
芋の苗植えから収穫、収穫した芋での焼き芋会と非常にいい機会となっている。

## 2. 入所児童数の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	2	4	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9
1歳	19	20	20	20	21	22	24	24	24	24	24	24
2歳	28	28	28	30	30	29	28	27	27	27	28	28
3歳	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31
4歳	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31
5歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
合計	135	138	142	145	146	146	147	146	146	146	147	147

未満児（0～2歳児）の途中入園希望の問い合わせは例年と同じように多かった。

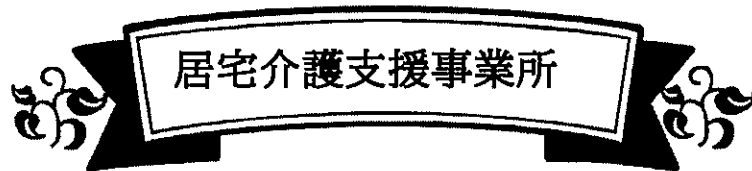
加配を要する園児への配慮等の理由で配置基準通りでの受け入れが難しい現状があり、お断りせざるを得なかった。

## 3. 施設整備及び修繕等の実施

- ・遊具塗装
- ・エアコン修理（保育室、遊戯室）
- ・オーニング交換（2か所）

経年劣化による修繕が多かった。

今後は排水調査や修繕が必要になってくる見通し



目標：真心の支援でご利用者様の幸福を追求する

今年度は年度途中に1名の異動及び初の試みで1名の兼務職員と体制が替わった中、「働きやすい職場」を実現するために、互いに思いやりの気持ちを持ち、試行錯誤をしながら日々の業務に取り組んだ。  
また、利用者様の自立とQOLを高めるために適切なケアマネジメントの実践に努めた。

### 1. 上質なサービスの提供

- ・年間行事計画に沿った研修会の参加や事業所内勉強会、他居宅介護支援事業所との合同研修会の参加等を行い、自己研鑽に努め、専門性を高められるよう意識し、質の高いサービスの提供に努めた。
- ・利用者様からの緊急時の相談に対応できるよう24時間連絡体制を確保し迅速に対応することができた。
- ・地域包括支援センター等との連携で、困難事例にも積極的に向き合うことができた。

### 2. 経営基盤の強化

- ・公正中立な立場で適正なケアマネジメントを提供し、各種加算取得へ意欲的に取り組み、生産性の向上を図った。
- ・ケアプラン件数、月250件以上の目標は達成できなかった。
- ・法人内事業所の紹介率40%以上の目標は達成できなかった。
- ・交通規則を遵守し、交通事故ゼロを継続できた。

#### 【事業実績】

居宅介護報酬請求件数 2,873件（前年比123件減）

認定調査108件（前年比93件増）

月	介護報酬	認定調査	月	介護報酬	認定調査
4月	252	18	10月	229	16
5月	255	19	11月	225	18
6月	250	22	12月	227	12
7月	253	17	1月	232	10
8月	248	18	2月	234	17
9月	233	14	3月	235	20
			合計	2873	201

☆介護報酬件数には介護予防件数も含む

### 3. 地域との関わり

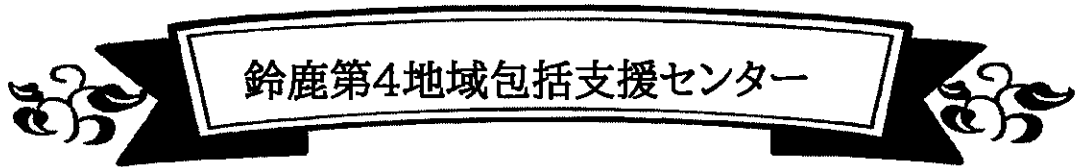
- ・地域包括支援センター等との連携で困難ケースに対しても迅速な対応を行うことができた。
- ・地域包括支援センター主催の地域ケア会議や意見交換会、在宅医療・介護連携支援センター主催の研修会に参加して医療・保健・福祉とのネットワークの構築に努めた。
- ・主任介護支援専門員が介護支援専門員協会の理事に着任し任務を遂行した。

#### 4. 職員満足度向上

- ・1on1ミーティングの実施等で日頃からコミュニケーションを図り、チームワークの強化、メンタルヘルスの実践に努めた。
- ・有給休暇の取得推進を図ったが職員により偏りがある。
- ・感染症対策が主な理由でリモートワークを実施した。

#### 今後の課題

- ・BCP（事業継続計画）を事業所内で周知し、有事の際、ケアマネジメント業務が継続できるよう工夫を施すことと平常時から準備をする。
- ・介護支援専門員の質の向上を目指し、チームワークを強化することで各々がやりがいを持って仕事に就けるよう、より良い職場環境になるよう努める。
- ・地域包括支援センター等と連携し地域に貢献し、頼られる事業所を目指す。
- ・従業員の健康維持、家族等と過ごす時間の確保、自己成長のための時間を持つ等、心に余裕を持ち、業務へ取り組む。



目標：安定した包括業務の実施と住民サービスの提供ができるセンターを目指す。

1. 上質なサービスの提供

住み慣れた地域で自分らしく暮らすことは誰しもの願いであり、高齢者が地域で自立した生活を営むために、地域共生社会の実現と地域包括ケアシステムの更なる深化、推進が求められている。

地域における身近な高齢者のワンストップ相談窓口として周知、啓発を重ね、地域の方や民生委員からの相談も年々増えている。令和5年度の新規相談件数は年間495件で、身近な相談窓口として浸透しつつあり、令和3年開設年度から比べると200件増加している。

相談事例に関しては包括職員全員が相談内容を共有し、定期的に進捗管理を行なっている。また専門的・継続的な関与が必要なケースについては三職種が専門性を活かし対応しており、地域関係者や各専門機関と連携をとっている。

圏域内の居宅介護支援専門員への後方支援やケアマネ支援会議も定期的を開催しており、必要時にはリアルタイムでの情報発信を行なっている。

総合相談支援業務

新規相談件数	495件／年
--------	--------

介護予防普及啓発事業

介護予防出前講座等の開催、サロン等への参加	13回／年
-----------------------	-------

権利擁護業務（成年後見、虐待等）

虐待への対応	5人／年
消費者被害への対応	2人／件

地域ケア会議関係業務

地域ケア個別会議の開催	5回／年
地域ケア圏域会議の開催	3回／年
自立支援型地域ケア会議への出席	3回／年

各種会議等

担当学会議の開催・出席	198回／年
認知症初期集中支援チーム員会議への出席	12回／年

認知症総合支援事業

地域支援推進員と協力した実践活動	4回／年
------------------	------

在宅医療・介護連携推進事業

在宅医療を行う医療機関との連携	25件／年
-----------------	-------

包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

圏域内ケアマネ支援会議・事例検討会	4回／年
関係機関・地域の協議会等による会議の参加回数	36回／年

## 2. 経営基盤の強化

包括直営件数に関しては、昨年比で延べ358件増加している。目標値としていた年間直営件数延べ1,000件以上達成でき、令和5年度は受託金予算内の事業運営ができた。委託件数に関しては例年とほぼ変わりはない。

またラインワークスでの情報共有、リモートでの研修・会議の参加等、ICTの活用により業務の生産性の向上に努めている。

### 事業実績

#### 指定介護予防支援事業

月	委託	直営	月	委託	直営
4月	148	94	10月	135	105
5月	148	81	11月	152	108
6月	145	83	12月	144	100
7月	142	96	1月	140	100
8月	139	94	2月	138	102
9月	133	106	3月	149	106
			合計	1713	1175

## 3. 地域との関わり

地域ケア圏域会議の開催については、第4包括圏域内の3地区（長太・箕田・若松）合同で年3回実施。「高齢者虐待について」「災害時の対応について・今後の課題」「高齢者の自動車運転と免許返納について」をテーマに会議を開催し、地域関係者や各専門機関と情報共有、意見交換を行なった。地域ケア個別会議、地域ケア圏域会議の開催を通じて地域の福祉課題を把握し、社会資源の開発・施策等の充実、ネットワークの構築等今後も関係機関と連携を強化していく。

長太地区については令和5年10月より住民主体の生活支援サービス（微助っ人）が始まり、社協生活支援コーディネーターと協働し毎月の定例会議に出席し、意見交換、助言等を行なっている。

介護者の集いについては令和5年度が年1回のみで開催となったが、令和6年度は年2回の開催を予定している。地域のサロン活動にも必要に応じて参加、助言等を行なっており、包括職員の講話も行なった。

## 4. 職員満足度向上

毎日の朝礼や月1回開催している定例会議で相互に情報を共有し、専門的見解等の視点から意見交換を行っている。また積極的に外部研修に参加し、研修で得た知識を都度センター職員間で共有している。

有給休暇取得率は70%を超えており、取得しやすい環境作りに努めている。

### 研修

センター内での研修	12回／年
センター外での研修	46回／年

## 今後の課題

地域住民が抱える課題が複雑化・複合化する中、従来の属性別の支援体制では複合課題や制度の狭間のニーズへの対応が困難になってきている。属性を問わない包括的な支援体制の構築が円滑に実施できる仕組みが必要とされ、令和6年度より重層的支援体制整備事業が実施されることとなった。

介護分野に限らず、障害分野、児童分野、困窮分野も含めた属性を問わない包括的な相談支援が期待されている中、地域包括ケアシステムの中核的機関としての役割をセンター職員が再認識し、縦割りの関係でなく横の関係性を築いていくことが重要と考える。

# 北部認知症初期集中支援事業

**目標：認知症の方が住み慣れた地域で自分らしく希望をもって日常生活を過ごすことが出来る地域づくりに取り組む**

鈴鹿市による「認知症フレンドリーシティ鈴鹿」の宣言、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の成立もあり、認知症があってもなくても暮らしやすい街づくりの構築に向け、認知症の正しい知識の普及啓発と、相談しやすい環境の構築、円滑なサービスに繋がる支援の体制構築に努めた。

## 1. 上質なサービスの提供

- ・9月より新チーム員として介護支援専門員1名の加入があり、2.5名換算の体制で業務を遂行。
- ・新チーム員は認知症疾患医療センターでの初期診断研修、認知症初期集中支援チーム員研修を受講し、日々のチーム業務の中で専門性が発揮されるよう指導と自己研鑽を重ね、人材育成に努めた。
- ・県で初めて開催された認知症初期集中支援チーム研修にも参加し、他市町と活動について情報共有することで、対応力向上に努めた。

(県)認知症初期集中支援チーム員研修	R5. 7. 14
認知症地域支援推進員 現任研修	R5. 7. 25～7. 26
(全国)認知症初期集中支援チーム員研修	R6. 1. 11
第11回認知症疾患医療センター全国研修東京大会	R6. 1. 27

- ・他、外部の研修10回/年参加しチーム員内で伝達講習とした。

### 【認知症初期集中支援チーム業務】

毎月1回チーム員会議を開催し、チーム医や各圏域地域包括支援センター、行政と支援の方向性について検討し、必要な専門医療機関への受診や介護サービスの利用に円滑に繋がるよう支援を実施した。また、事例検討会を通して初期集中支援事業について周知するとともに、各関係機関と地域での課題や連携の方法について情報共有を実施した。

チーム員会議 開催	12回
事例検討会 開催	1回(R5. 9. 28)
4チーム合同会議	12回
アウトリーチ合同会議	4回
認知症初期集中支援チーム全体会議	2回
認知症初期集中支援チーム検討会議	2回

### 【認知症地域支援推進事業】

「認知症フレンドリーシティ鈴鹿」の宣言により、市内での認知症施策の動向へ注目も高まりつつあり、担当圏域3か所のオレンジカフェの発展、小さな本棚の設置、スローショッピングの新店舗開催などの活動推進に尽力した。また、7月に認知症地域支援推進員の現任研修をチーム員2名受講し、資質向上に努めた。

オレンジカフェ 第3圏域・第4圏域・第5圏域	各12回
おれんじルーム	12回
小さな本棚設置のための会議	5回
スローショッピング マックスバリュ鈴鹿店	4回
アルツハイマーデーイベント	1回(R5. 9. 18)
鈴鹿市シティマラソンにて啓発活動	1回(R6. 12. 17)
認知症ステップアップ講座受講	1回
認知症サポーター養成講座	3回
認知症連絡会	3回

## 2. 経営基盤の強化

- ・顔の見える関係づくりに注視しながら、法人内外の各関係機関と多職種連携による支援のネットワーク構築に向け活動を実施。適時、チャットワークやLINEWORKSなどのICTも活用し時間管理やコスト管理への意識づけも行った。
- ・R6年1月、公用車で運転中に自損事故発生あり。職員間で余裕を持った行動管理、安全な運転について再確認と共有を実施。

### 【活動実績について】

	R4年度	R5年度
相談者実人数	64件	76件
うち支援対象者実人数	46件	47件
支援終結者実人数	37件	39件
対象者の訪問延べ回数（不在除く）	172回	187回

### 【相談者について】

#### ①相談経路

直接（電話・来所等含む）	38
包括を通じて	38
合計	76

#### ②相談者の内訳

本人	4
家族	52
民生委員	3
近隣住民	5
担当ケアマネ	4
その他	8
合計	76

## 3. 地域との関わり

- ・チームオレンジの活動やオレンジカフェの発展により、地域の方との交流する機会が増え、地域性を考慮しながら、地域づくりについて検討する機会を設けることができた。
- ・民生児童委員定例会への参加の継続にて、民生委員さんや地域住民からの相談も寄せられるようになり、より相談しやすい環境の構築に向け働きかけた。
- ・鈴鹿市の認知症施策進捗について、各関係機関と共有し、周知啓発活動の様々なイベントへの参画で初期集中業務や推進員業務について知ってもらえるよう努めた。

## 4. 職員満足度向上

- ・各々の有給休暇取得の勤務調整、時短職員の業務量配分、ノー残業デーの順守などに配慮し職員間で協力しながらワークライフバランスの実現に向け取り組んだ。
- ・リフレクションシートを活用し、個人の目標設定と目標管理を行い、専門性を生かした数年後の仕事観についても検討できるよう適時話し合いを実施した。

### 今後の課題

- ・チーム員の移動や交代によるチーム員力の安定化を図ることや、対応力向上が課題としており、認知症初期集中支援チーム員研修や認知症地域支援推進員研修など必要な研修に計画的に参加しチーム員力向上に努める。
- ・新チーム体制への編成もあり、改めてチームの周知啓発に努め、地域の相談が途切れることなく入る環境を整え体制構築する。
- ・R6年1月施行の認知症基本法の理解を深め、鈴鹿市の認知症施策の推進へ活動参画する。
- ・事務所移転に伴い、法人内他事務所への事業内容をLINEWORKSやチャットワーク等も活用し、逐次報告に努める。